



Simply Better Connections

CS1798A

8 ポート USB 2.0 4K HDMI KVM スイッチ ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルは、ATEN International Co., Ltd. が作成した英語版ユーザーマニュアルをもとに、ATEN ジャパン株式会社が機械翻訳をベースに作成したドキュメントです。

日本国内のお客様への便宜を図る目的で公開していますが、用語や表現に、機械翻訳による表記ゆれが残っている場合があります。

本マニュアルは、グローバル共通となる英語版を翻訳したものであるため、日本国内で取り扱いのない製品情報が含まれる場合があります。

製品の取扱いや仕様などは日本国内の法規に抵触する内容を除き、基本的に英語版ユーザーマニュアルに準拠します。正確性を要する場合は、本マニュアルは英語版を読む際の補助テキストとしてご利用ください。

なお、内容に不備や誤りなどがございましたら、お手数ですが ATEN ジャパン株式会社までお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

適合性に関する宣言

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本装置は、FCC規則パート15に定めるクラスAデジタル装置の制限に適合していることが、試験により確認されています。これらの制限は、本装置を商業環境で使用する場合に、有害な電波干渉に対する合理的な保護を提供することを目的としています。本装置は、高周波エネルギーを発生・使用し、また放射することがあるため、本書の指示に従わずに設置・使用した場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすおそれがあります。また、本装置を住宅地域で使用すると、有害な電波干渉を引き起こす可能性があります。その場合、使用者は自己の費用負担において干渉を解消することが求められます。

本装置は、FCC規則パート15に適合しています。動作は、次の2つの条件に従うことを前提とします。

- (1) 本装置は、有害な干渉を引き起こしてはならない。
- (2) 本装置は、意図しない動作の原因となる干渉を含め、受信したすべての干渉を受け入れなければならない。

FCCによる注意事項

コンプライアンスの責任者が明示的に承認していない変更・改造を行った場合、本装置を使用する権限が無効になることがあります。

警告

この装置を住宅地域で使用すると、有害な電波干渉を引き起こす可能性があります。



カナダ産業省による宣言

クラスAの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES (A) / NMB (A)

HDMI商標に関する宣言

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。



RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

ユーザー情報

オンライン登録

製品がお手元に届きましたら、オンラインサポートセンターへの登録をお願いします。

インターナショナル	http://eservice.aten.com
-----------	---

電話によるサポート

電話でのお問い合わせは、以下の窓口までご連絡ください。

インターナショナル	886-2-8692-6959
中国	86-400-810-0-810
日本	81-3-5615-5811
韓国	82-2-467-6789
北米	1-888-999-ATEN ext 4988
	1-949-428-1111

ユーザーの皆様へ

本書に記載された内容・仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。製造元は、本書の内容について、明示・黙示を問わず、商品性および特定目的への適合性の保証を含め、いかなる保証も行いません。本書に記載されたソフトウェアは、現状有姿（AS IS）で提供されます。法令により認められる範囲において、また別途定める保証規定による場合を除き、ソフトウェアの欠陥に起因する保守・修理の費用および付随的・派生的損害について、製造元、代理店および販売店は責任を負いかねます。

未承認の改造に起因するラジオ・テレビへの受信障害について、製造元は責任を負いかねます。この場合の受信障害は、お客様の責任と負担において解消してください。

誤った電圧設定のまま使用したことによる損害について、製造元は責任を負いかねます。ご使用前に、必ず電圧設定をご確認ください。

製品情報

ATEN製品や接続方法の詳細については、弊社ウェブサイトをご覧ください。ATEN販売代理店へお問い合わせください。販売代理店の所在地や連絡先一覧も、弊社ウェブサイトで確認できます。

インターナショナル	http://www.aten.com
北米	http://www.aten-usa.com

同梱品

同梱品がすべて揃っていること、輸送中の破損がないことを確認してください。問題が発生した場合は、購入元にお問い合わせください。

- ◆ CS1798A 本体 × 1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル × 1
- ◆ ラックマウントキット × 1
- ◆ 電源アダプター × 1
- ◆ 電源アダプター用ACケーブル × 1
- ◆ フットパッド(4個入り) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

目次

適合性に関する宣言	i
ユーザー情報	ii
オンライン登録	ii
電話によるサポート	ii
ユーザーの皆様へ	iii
製品情報	iii
同梱品	iv
目次	v
本マニュアルについて	ix
マニュアル表記について	x
第1章 はじめに	1
概要	1
特長	3
システム要件	5
コンソール	5
コンピューター	5
ケーブル	6
OS	6
製品各部名称	7
フロントパネル	7
リアパネル	7
第2章 ハードウェアのセットアップ	10
概要	10
セットアップの種類	10
セットアップの前に	11
卓上設置とラックへの取り付け	11
卓上設置	12
ラックのフロント側への取り付け	13

ラックのリア側への取り付け	15
単体構成でのセットアップ	17
接続図(単体構成)	18
2段階のカスケード接続	19
接続図(2段階のカスケード接続時)	21
3段階のカスケード接続	22
接続図(3段階のカスケード接続時)	23
マルチディスプレイのセットアップ	24
マルチディスプレイの機器構成におけるケーブル接続	24
接続図(マルチディスプレイでの構成時)	25
「垂直」チャンネルに対するポートのグループ化	26
チャンネル接続図	26
第3章 基本操作	27
ホットプラグ	27
KVMポートのホットプラグ	27
コンソールポートのホットプラグ	27
ポート選択	28
ポートの手動切替	28
ポートIDの付番	28
電源オフと再起動	29
第4章 OSD操作	30
概要	30
製造番号	30
OSDへのログイン	30
OSDホットキー	31
OSDメイン画面	31
OSDメイン画面の見出し	32
OSD操作	32
OSD機能	33
F1:GOTO	33
F2:LIST	34
F3:SET	35
F4:ADM	37
F5:SKP	42

F6:BRC	43
F7:SCAN	43
F8:LOUT	44
第5章 ホットキー操作.....	45
ホットキーによるポート操作.....	45
ホットキー設定モード	46
HSMの起動.....	46
アクティブポートの選択	47
オートスキャンモード	48
オートスキャンの起動	48
スキップモード	50
キーボード／マウスのリセット.....	51
ホットキーによるビーブ音の制御.....	51
クイックホットキーの制御	52
OSDのホットキー操作	52
ポートOSの操作	53
USB転送速度の設定	53
デフォルト値の復元.....	54
キーボード／マウスのリセット.....	54
ビデオダイナシンク	54
マウスエミュレーションの制御.....	55
HSM一覧表	56
第6章 キーボードエミュレーション.....	58
Macキーボード	58
Sunキーボード.....	59
第7章 ファームウェア管理ユーティリティ	60
はじめに	60
ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード.....	60
準備	61

アップグレードの開始	62
アップグレードの成功	64
アップグレードに失敗した場合	64
ファームウェアアップグレードの復旧	65
OSD設定のバックアップ／復元	66
バックアップ	66
復元	67
付録	68
安全にお使いいただくために	68
全般	68
ラックへのマウント	70
技術サポート	71
インターナショナル	71
北米	71
CS1798A の台数と制御可能台数の対応表	72
仕様	73
アドミニストレーターでログインできない場合	75
工場出荷時のホットキーと設定のデフォルト値	76
ATEN保証ポリシー	77

本マニュアルについて

本書は、CS1798Aを最大限に活用していただくためのマニュアルです。本書では、製品の取り付け・セットアップ・操作の方法について解説しています。マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに:CS1798Aを紹介します。製品の特長、機能概要および製品本体の各部名称について説明します。

第2章 ハードウェアのセットアップ:図を用いてシステムのセットアップ方法を説明します。単体構成、3 段階のカスケード接続、マルチディスプレイ構成に必要な手順を紹介しします。

第3章 基本操作:CS1798Aを操作する上での基本的な考え方について説明します。

第4章 OSD操作:CS1798A の OSD (オンスクリーンディスプレイ)の詳細と、その操作方法について説明します。

第5章 ホットキー操作:CS1798Aのシステムにおけるホットキー操作に関連するすべての概念と手順の詳細について説明します。

第6章 キーボードエミュレーション:PCからMacキーボード、およびPCからSunキーボードへのエミュレーションマッピングを表形式で説明します。

第7章 ファームウェア管理ユーティリティ:このユーティリティを使用して CS1798A のファームウェアを最新バージョンにアップグレードし、OSD 設定のバックアップ／復元を実行する方法について説明します。

付録:製品仕様およびその他の技術情報を巻末に掲載しています。

注意:

- ◆ 本書を十分にお読みのうえ、設置および操作手順に従って、本機および接続機器の破損を防止してください。
- ◆ 本書のリリース以降、製品の機能や特長が追加・改良・削除されることで、内容が更新される場合があります。最新のユーザーマニュアルは、
<http://www.aten.com/global/en/>にてご確認ください。

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記します。

1. 番号が付いている場合は、番号に従って操作してください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順ではありません。

> 矢印は操作の手順を示します。例えば、「スタート」>「実行」は、「スタート」メニューを開き、「実行」を選択する操作です。



重要な情報を示す時に使用します。

第1章 はじめに

概要

CS1798A は、4K DCI 映像をサポートし、1 台のコンソールから複数のコンピューターを集中管理できるエンタープライズ向け KVM スイッチです。企業、政府機関、メディアやコンテンツプロバイダー、ビデオ監視環境などで、運用の合理化や監視効率の向上、システム管理の簡素化に貢献します。

1台のコンソールに統合された 4K DCI 制御

CS1798A は、USB キーボード・マウスと HDMI ディスプレイからなる1台のコンソールで、最大8台のコンピューターを操作・管理できます。最大4K DCI解像度の映像品質を保ったまま、ポートを切り替えられます。複数システムの制御を 1 台のコンソールに統合することで、運用ワークフローを簡素化し、システム切替が高速化され、プロフェッショナル環境における継続的な監視業務やマルチタスクの効率向上を支援します。

3段階カスケード接続による柔軟なシステム拡張

CS1798A は最大 3 段階のカスケード接続をサポートし、1 台のコンソールから最大 512 台のコンピューターを集中管理できます。この接続方式により、既存の構成を変更することなくシステムを拡張でき、成長する IT インフラやサーバールーム、大規模制御環境に最適です。

柔軟性に優れたマルチディスプレイ構成で高度な監視を実現

CS1798A は、最大 8 台の CS1798A を連結することでマルチディスプレイ機能をサポートします。最大 8 台のディスプレイでビデオ出力を同時に監視・比較できるため、マルチソースのビジュアル分析が簡素化され、高度な監視環境における状況認識が向上します。

個別切替機能により USB 周辺機器を自在に共有

CS1798A は、USB 周辺機器を共有できる 2 ポート USB 2.0 ハブを内蔵しています。KVM と USB 周辺機器の個別切替により、すべてのデバイスを同時に切り替え

たり、選択したシステムで USB 周辺機器の接続を維持したりするなど、運用の柔軟性とワークフローの効率が改善されます。

システムの操作とメンテナンスが簡単

CS1798A は、フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、直感的な OSD (オンスクリーンディスプレイ) など、複数の切替方法を提供し、迅速かつ効率的なシステムアクセスを実現します。オートスキャンモードは、接続されたコンピューターを自動的に循環して継続的な監視を行います。また、ファームウェアのアップグレード機能により、将来的な機能強化、互換性、長期的なシステムメンテナンスが容易になります。

特長

高性能な映像・表示機能

- ◆ 最大4096 × 2160 @ 60 Hzをサポート※1
- ◆ ビデオダイナシーク - 起動時やポート切替時の解像度を最適化
- ◆ HDCP 2.2準拠

拡張性に優れたKVMアーキテクチャーとマルチディスプレイ構成

- ◆ 1カ所のUSBコンソールから、最大8台のHDMIコンピューターと2台のUSB 2.0周辺機器を操作
- ◆ 3段階のカスケード接続に対応 - 最大512台のコンピューターを操作
- ◆ マルチディスプレイ機能 - 最大8台のCS1798Aを連結し、最大8台のモニターに映像を出力(デュアル/トリプル/クアッド/マルチのディスプレイ構成に対応)
- ◆ ホットプラグ対応

柔軟な切替・制御

- ◆ 切替方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、多言語OSD
- ◆ KVMとUSB周辺機器の個別切替に対応
- ◆ コンソールマウスポートのエミュレーション/バイパス機能に対応 - 多種マウスドライバ、多機能マウスをサポート
- ◆ キーボードエミュレーションにより起動時のエラーを回避
- ◆ オートスキャンモード - 接続された各コンピューターを自動的に切替・巡回
- ◆ ブロードキャストモード - 選択したすべてのコンピューターで操作を同時実行

USB・オーディオ・周辺機器の統合

- ◆ 2ポートUSB 2.0ハブ内蔵※2
- ◆ オーディオ対応 - 2.1chサラウンドシステム対応

- ◆ フロントパネルにコンソールオーディオポートを搭載

OSD設定とシステムメンテナンス

- ◆ OSDバックアップ／リストア機能 - 本体設定およびユーザープロファイル情報をバックアップ
- ◆ ファームウェアアップグレード対応

サポートされるプラットフォーム・言語・キーボード

- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun
- ◆ Mac/Sunキーボードとエミュレーションに対応※3
- ◆ 多言語OSD - 複数の言語に対応
- ◆ 多言語キーボードマッピング - 多様な地域要件に対応

注意:

1. CS1798Aは最大4096 × 2160 @ 60 Hzの解像度をサポートしています。最適な互換性とパフォーマンスのため、接続ソースの解像度は4096 × 2160 @ 60 Hz以下にしてください。
 2. カスケード接続の場合、1段目のUSB 2.0ハブには2段目および3段目のコンピューターからアクセスできません。
 3. PCキーボードのキーの組み合わせにより、Mac/Sunキーボードをエミュレートします。なお、Mac/Sunキーボードは、それぞれ対応するコンピューターでのみ動作します。
-

システム要件

コンソール

- ◆ 接続コンピューターの最高解像度に対応した HDMI 互換ディスプレイ

注意:

マルチディスプレイで使用する場合は、複数のディスプレイが必要です。詳細については、p.24「マルチディスプレイのセットアップ」を参照してください。

- ◆ USBマウス
- ◆ USBキーボード
- ◆ スピーカー(オプション)

コンピューター

各コンピューターで以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ HDMI 出力に対応したグラフィックスカード

注意:

1. 表示品質は使用するグラフィックスカードの性能に影響されます。最良の結果を得るため、高品質な製品の使用を推奨します。
 2. マルチディスプレイ構成の場合、コンピューターには複数の HDMI 対応グラフィックスカードが必要です。詳細はp.24「マルチディスプレイのセットアップ」を参照してください。
-

- ◆ USB Type-Aポート
- ◆ スピーカーポート(オプション)

ケーブル

- ◆ 製品本体とコンピューターの接続には、標準の HDMI ケーブルを使用できます（本製品には付属していません）。

注意:

表示品質はケーブルの品質と長さに影響されます。追加でケーブルが必要な場合は、販売店にお問い合わせのうえ、本製品に適したものをお求めください。

- ◆ マルチディスプレイ構成でセットアップする場合は、別売ケーブル「2L-7D02HX2」の USB Type-A→USB Type-B ケーブルに加えて、標準の HDMI ケーブルも必要です。

OS

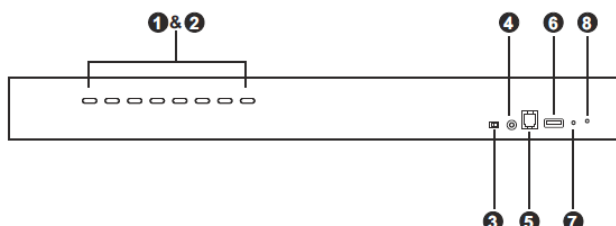
OS		バージョン
Windows		2000 / XP / 2003 / 2008 / Vista / 7 / 8 / 10
Linux	RedHat	9.0 以上
	SuSE	10 / 11.1 以上
	Debian	3.1 / 4.0
	Ubuntu	7.04 / 7.10
UNIX	AIX	4.3 以上
	FreeBSD	5.5 以上
	Sun	Solaris 8 以上
Novell	Netware	6.0 以上
Mac		OS 9～10.6 (Snow Leopard)

注意:

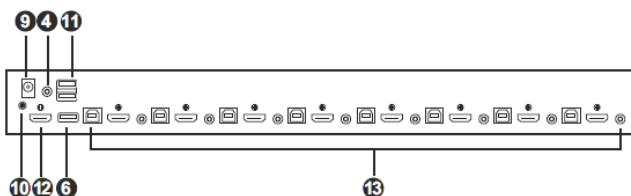
1. Linux は Kernel 2.6 以降をサポートします。
 2. CS1798A は USB 2.0 ハブを搭載しています。このため、USB 2.0 に対応していない PC や OS はサポートされません。
-

製品各部名称

フロントパネル



リアパネル



番号	名称	説明
1	ポート選択ボタン	手動でポートを選択する場合は、次のとおりに操作します (p.28「ポート選択」参照)。 - ポート選択ボタンを短く(2秒未満)押して離すと、対応するポートに接続されたコンピューターの KVM、USB ハブ、オーディオの制御を切り替えます。 - ポート選択ボタンを 2 秒以上押すと、対応するポートに接続されたコンピューターの KVM とオーディオの制御を切り替えます*。 - ポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 2 秒間押すと、オートスキャンモードを開始します (p.48「オートスキャンモード」参照)*。 - ポート選択ボタン 7 と 8 を同時に 2 秒間押すと、キーボードとマウスのリセットを実行します (p.51「キーボード／マウスのリセット」参照)。 注意: 個別切替を行うには、マウスエミュレーションを有効にしてください (p.41参照)。

番号	名称	説明
2	ポートLED	ポート LED はポート選択スイッチに内蔵されています。左側が KVM ポート LED、右側が USB LED です。 KVM ◆ 暗いオレンジ色に点灯している場合、対応するポートに接続されたコンピューターが稼働中(オンライン)であることを示します。 ◆ オレンジ色の LED とグリーン色の LED が同時に点滅している場合、ファームウェアアップグレードモードが有効であることを示します。 ◆ 明るいオレンジ色に変わった場合、対応するポートに接続されたコンピューターが KVM の制御対象(選択状態)であることを示します。 ◆ 点滅している場合、対応するポートに接続されたコンピューターがオートスキャンモードでアクセスされていることを示します。 USB ◆ グリーンのLEDが点灯すると、対応するポートに接続されたコンピューターがUSB周辺機器にアクセスできることを示します。
3	ファームウェアアップグレードリカバリースイッチ	通常の操作中およびファームウェアのアップグレード中は、このスイッチを「NORMAL」の位置に合わせてください。ファームウェアのアップグレードが正常に完了しなかった場合は、このスイッチを使用してアップグレードの復旧を行うことができます。詳細については、p.65 「ファームウェアアップグレードの復旧」を参照してください。
4	オーディオポート	メインスピーカーのケーブルを接続します。フロントパネルに接続されたスピーカーは、リアパネルのスピーカーよりも優先されます。
5	ファームウェアアップグレードポート	ファームウェアアップグレードケーブルを接続するための RJ-11 ポートです。このケーブルで、管理用コンピューターから製品本体へファームウェアアップグレードデータを転送します。

番号	名称	説明
6	USB 2.0 周辺機器ポート	USB 2.0 周辺機器(プリンター、スキャナーなど)を接続できます(電源アダプターが追加で必要になる場合があります)。 注意: カスケード構成の 2 段目/3 段目のコンピューターからは、USB 2.0 ハブを利用できません。
7	リセットボタン	このボタンを押すとシステムが再起動します。リセット中はピープ音が鳴り、ポート LED が点滅し続けます。リセット完了後、再度ログインできます。 注意: ボタンはピンホール内にあるため、ペーパークリップやボールペンなどの細いもので押し込む必要があります。
8	電源LED	点灯している場合、製品本体の電源が投入され、動作可能であることを示します。
9	電源ジャック	電源アダプターのケーブル部分を接続します。
10	接地端子	接地線を取り付けて、CS1798A 本体を接地します(オプション)。
11	コンソール USBキーボード/ マウスポート	HDMI モニター、USB キーボード、および USB マウスを接続します。各ポートには、対応する機器を示すアイコンが付いています。
12	コンソール HDMI出力ポート	
13	KVMポート セクション	コンピューターを製品本体に接続するケーブルを接続します。各 KVM ポートセクションは、スピーカージャック、USB Type-B ポート、ネジロック付き HDMI コネクターで構成されています。

第2章 ハードウェアのセットアップ

概要

複数のプラットフォームに対応するため、CS1798A は別売ケーブル「2L-7D02HX2」の USB Type-A→USB Type-B ケーブルと HDMI ケーブルでコンピューターと接続します (p.18「接続図(単体構成)」参照)。ケーブルは販売店にご確認のうえ、適したものを求めください。

セットアップの種類

CS1798A は、単体構成／カスケード構成とマルチディスプレイ構成の 2 種類の方法でセットアップできます。ケーブル接続方法が異なるため、両方の構成を 1 つのシステムで併用することはできません。詳細は次のセクションを参照してください。

セットアップの前に



1. 機器の設置に際し重要な情報をp.68に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 電力サージや静電気によるシステムの損傷を防ぐために、すべての接続機器が適切に接地されていることが重要です。
3. 取り付けるすべてのデバイスの電源がオフになっていることを確認してください。キーボード操作による電源オン機能があるコンピューターは、コンピューター本体の電源コードも抜いてください。
4. 環境温度が高い場合は、注意してデバイスを操作してください。このような条件下では、デバイスの表面が過熱する可能性があります。例えば、環境温度が50°Cに近づくと、デバイスの表面温度が70°C以上になり、低温やけど等、けがや事故を引き起こす原因になります。

卓上設置とラックへの取り付け

CS1798A は、台の上に積み重ねて設置したり、ラックのフロント側またはリア側に取り付けたりできます。以下のセクションでは、各方法の手順について説明します。

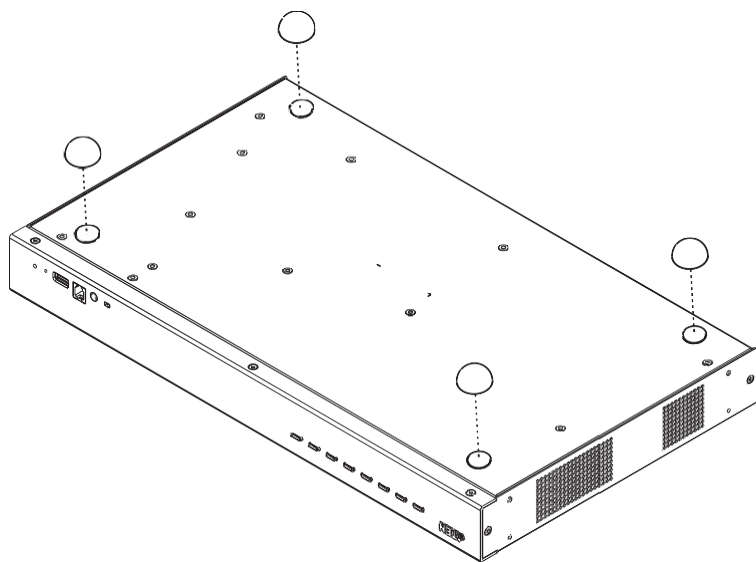
注意:

1. 適切な通気のために本体両側に 5.1 cm 以上、また、電源ケーブルとその他のケーブルの間隔を確保するために本体背面に 12.7 cm 以上の空間を設けてください。
 2. 同梱のラックマウントキットには、ラック搭載用のビスやケージナットは含まれていません。ビスやケージナットが追加で必要になる場合は、使用するラックメーカーの調達先にお問い合わせください。
-

卓上設置

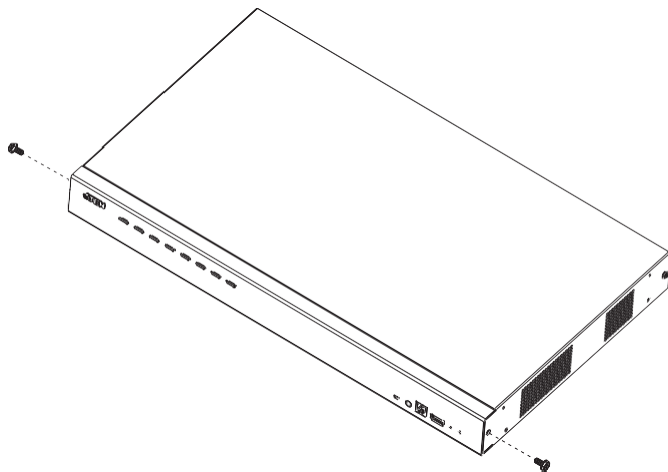
CS1798A は、製品本体および接続ケーブルの総重量に耐えられる、安定した水平な場所であればどこにでも設置できます。設置面が清潔で、排気口を塞いだり、製品本体の通常動作を妨げたりするものがないことを確認してください。

CS1798A を台の上に設置する場合、またはカスケード接続でユニットを重ね置きする場合は、パッケージに同梱されているゴム製フットパッドの裏面の剥離紙をはがし、下図のように本体底面の四隅に貼り付けてください。

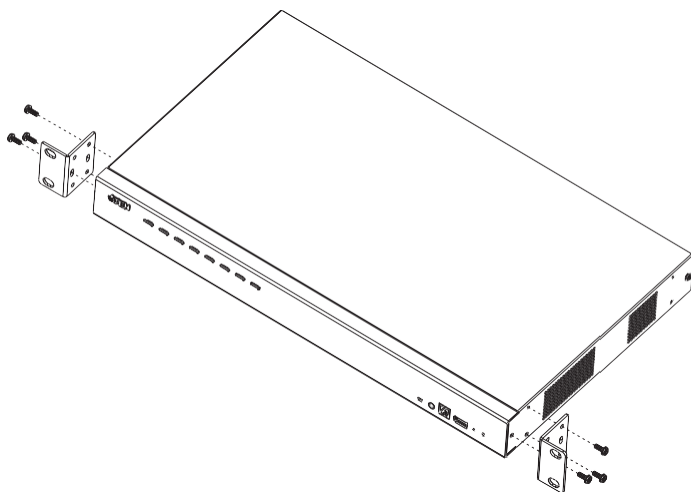


ラックのフロント側への取り付け

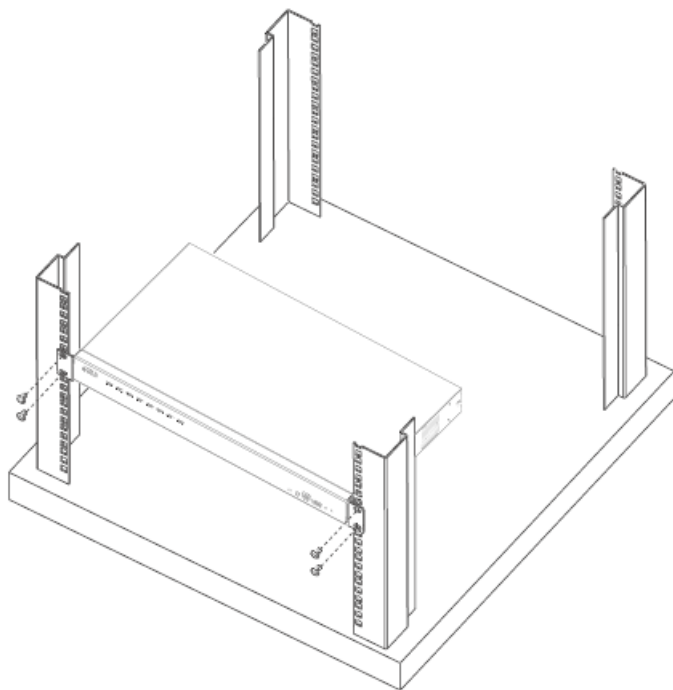
1. ネジを取り外します。ネジは製品本体の左側と右側のフロント寄りにあり、左右それぞれ 1 本ずつ取り外します。



2. マウントキットに付属の M3×8 プラス六角ネジを使用して、マウント用ブラケットを製品本体のフロント寄りの側面に取り付けます。

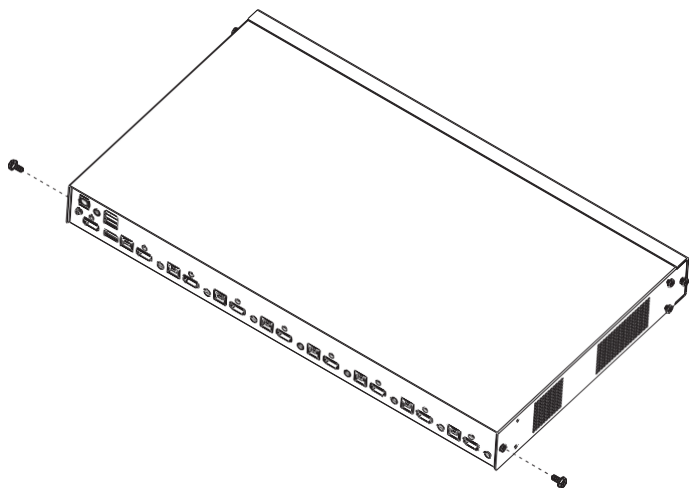


3. 製品本体をラックに取り付けます。マウント用ブラケットの穴をラックの対応する穴に合わせたら、マウント用ブラケットをラックのフロント側に固定してください。

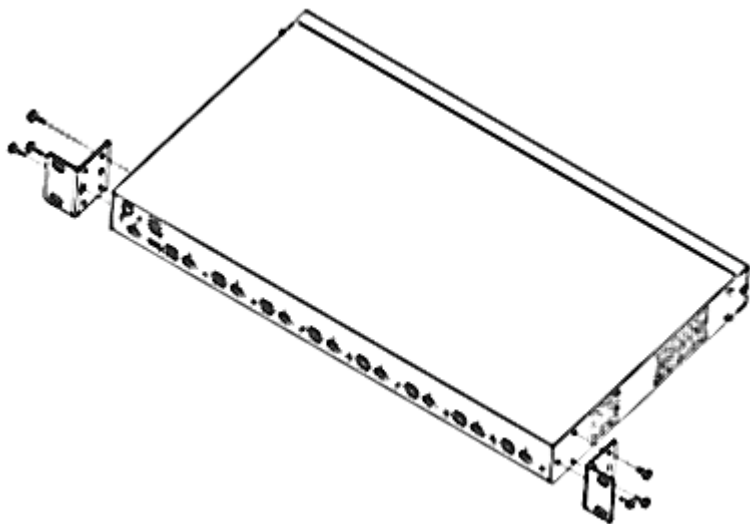


ラックのリア側への取り付け

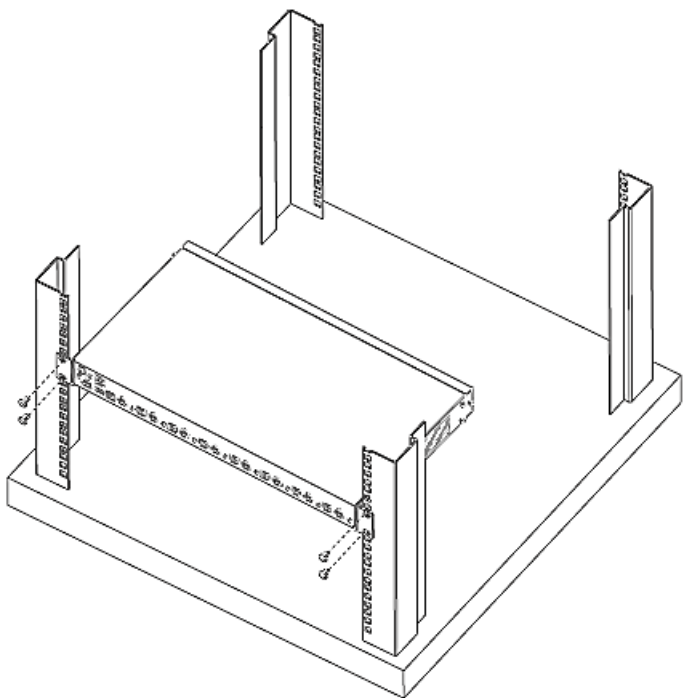
1. ネジを取り外します。ネジは製品本体の左側と右側のリア側にあり、左右それぞれ1本ずつ取り外します。



2. マウントキットに付属のM3×8プラス六角ネジを使用して、マウント用ブラケットを製品本体のリア寄りの側面に取り付けます。



3. 製品本体をラックに取り付けます。マウント用ブラケットの穴をラックの対応する穴に合わせたら、マウント用ブラケットをラックのリア側に固定してください。



単体構成でのセットアップ

CS1798Aを1台だけ使ってセットアップするには、p.18の接続図を参照し(図内の番号は以下の手順に対応)、以下の手順で作業します。

1. 接地線の一方向の端を接地端子に接続したら、もう一方の端を適切な接地物に接続して、CS1798A本体を接地します。

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. USBキーボードおよびUSBマウスを、コンソールUSBキーボード／マウスポート(本体リアパネルに位置)に接続します。
3. HDMIモニターをコンソールビデオポート(本体リアパネルに位置)に接続し、モニターの電源を入れます。
4. スピーカーをオーディオポート(本体のフロントパネルとリアパネルに位置)に接続します。フロントパネルに接続されたスピーカーは、リアパネルに接続されたスピーカーよりも優先されます。
5. 以下の接続用として、最大8本のHDMIケーブル、8本のUSB Type-A→USB Type-Bケーブル、8本のオーディオケーブルを準備します。
 - ◆ HDMIケーブルを、製品本体のKVMポートセクション(CPU1、CPU2など)の空いているHDMIポートに接続します。
 - ◆ USB Type-A→USB Type-BケーブルのUSB Type-Bコネクタとオーディオケーブルを対応するポートに接続します。

注意:

すべてのコネクタが同じKVMポートセクション(すべてCPU1、すべてCPU2など)にあることを確認してください。各ポートには、接続デバイスを示す適切なアイコンが付いています。

6. 手順5で使用したケーブルのもう一方の端にあるHDMIケーブル、USB Type-A→USB Type-Bケーブル、およびオーディオケーブルを、コンピューターの各ポ

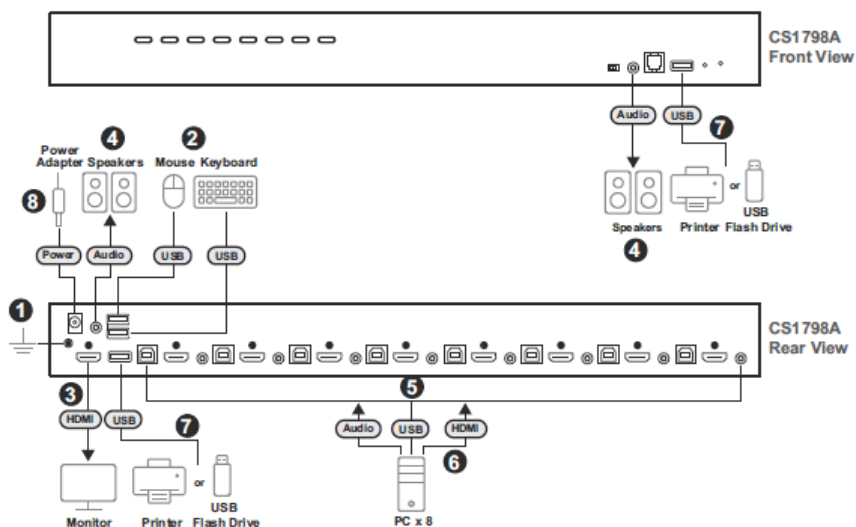
ートに接続します。取り付ける他のPCについても、手順5と6を繰り返します。

7. (オプション)USB周辺機器を、USB 2.0周辺機器ポート(製品本体のフロントパネルとリアパネルに位置)に接続します。
8. 本製品に付属の電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続したら、電源アダプターをAC電源に接続して、CS1798Aの電源を入れます。
9. コンピューターの電源を入れます。

注意:

CS1798Aが接続されているコンピューターとデバイスも正しく接地されていることを確認してください。

接続図(単体構成)



電力サージや静電気による設備への損傷を防ぐため、接続されているすべての機器を適切に接地することが重要です。

2段階のカスケード接続

さらに多くのコンピューターを制御するために、1段目にあるユニットのKVMポートからCS1798Aを追加でカスケード接続ができます。1段目のユニットにカスケード接続しているCS1798Aは、2段目のユニットと見なされます。2段階の機器構成では、64台のコンピューターを完全に制御できます。p.72に、コンピューターの台数と、それらの制御に必要なCS1798Aの台数の関係を示す表を掲載しています。

2段階でシステムを構築する場合は、次ページの「接続図(2段階カスケード接続時)」を参照してください。

1. 接続するすべてのデバイス(セットアップされているすべての既存のデバイスを含む)の電源が切れていることを確認します。
2. 標準ケーブル式(HDMIケーブル1本、USB Type-A→USB Type-Bケーブル1本、オーディオケーブル1本。詳細はp.6「ケーブル」参照)を使用して、1段目のユニットの利用可能なKVMポートと2段目のユニットのコンソールポートを接続します。

注意:

USB Type-A コネクタをコンソールセクションの下側の USB(キーボード)ポートに接続します。USB コネクタとUSB ポートには、対応する接続先を示す同じアイコンが付いています。

3. 別売ケーブル(2L-7D02HX2・HDMIケーブル1本、USB Type-A→USB Type-Bケーブル1本、オーディオケーブル1本)を用意します。HDMIコネクタは、2段目のユニットのKVMポートセクションにある空きHDMIポートへ接続してください。USB Type-Bコネクタとスピーカーコネクタも、それぞれ対応するポートへ接続します。

注意:

すべてのコネクタが同じKVMポートセクション(すべてCPU1、すべてCPU2など)に接続していることを確認してください。各ポートには、接続デバイスを示す適切なアイコンが付いています。

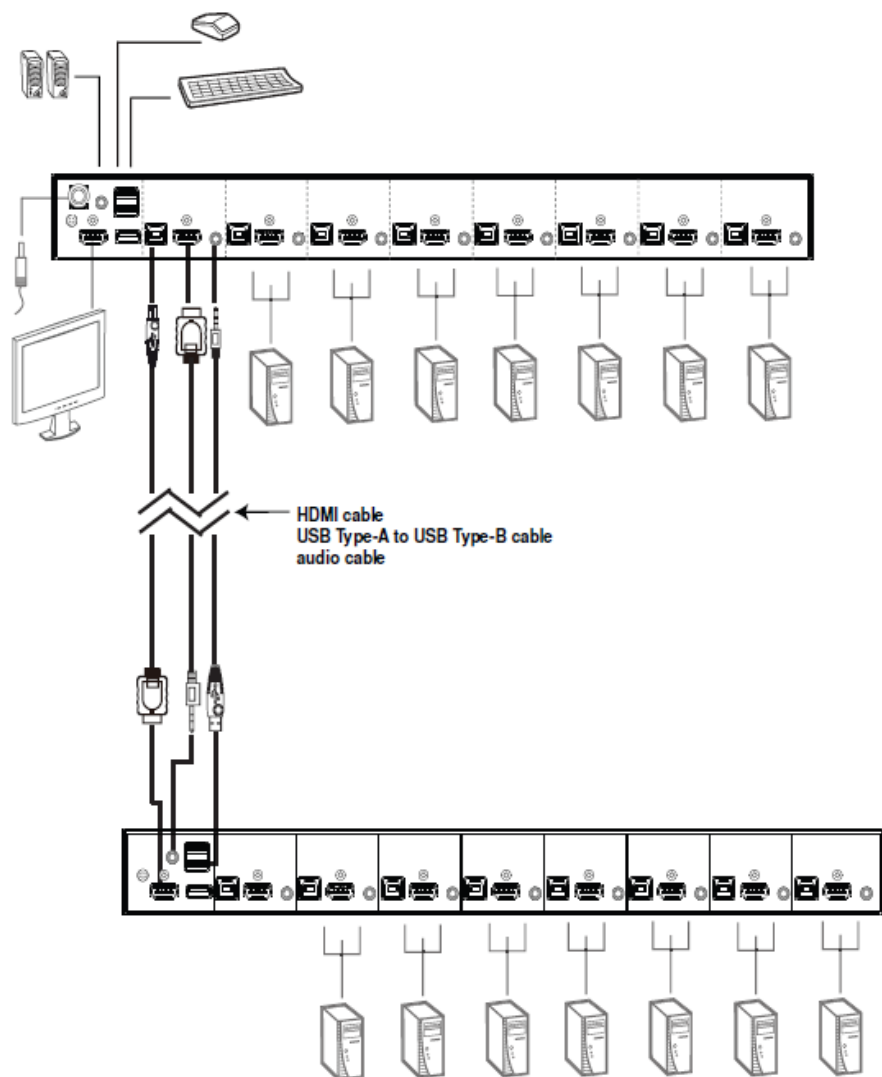
4. 手順3で使用したケーブルのもう片方の端にあるUSB Type-A、HDMI、およびスピーカーの各コネクタを、コンピューターのそれぞれのポートに接続します。

5. 接続するその他のコンピューターでも、手順3と4を繰り返します。
6. 2段目で使用する各ユニットで、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続し、電源アダプターをAC電源に接続します。
7. 1段目で使用するユニットで、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続し、電源アダプターをAC電源に接続します。
8. コンピューターの電源を入れます。

注意:

- ◆ 電源投入の順序は、まず2段目にあるKVMスイッチをオンにし、その後に1段目のKVMスイッチをオンにします。この順序ですべてのKVMスイッチの電源が入ったら、コンピューターの電源をオンにします。
 - ◆ カスケード接続の場合、1段目のUSB 2.0ハブには2段目および3段目のコンピューターからアクセスできません。
 - ◆ CS1798Aが接続するコンピューターおよびデバイスも正しく接地されていることを確認してください。
-

接続図(2段階のカスケード接続時)



3段階のカスケード接続

3段階の機器構成でセットアップする手順は、基本的に2段階の機器構成の場合と同じです。CS1798Aを3段階のセットアップで使用すると、完全な機器構成で最大512台のコンピューターを制御できます。p.72に、コンピューターの台数と、それらの制御に必要なCS1798Aの台数の関係を示す表を掲載しています。

注意:

1. CS1798Aは3段目を超えてカスケード接続することはできません。
 2. CS1798Aは他のCS1798Aユニットとのみカスケード接続できます。
-

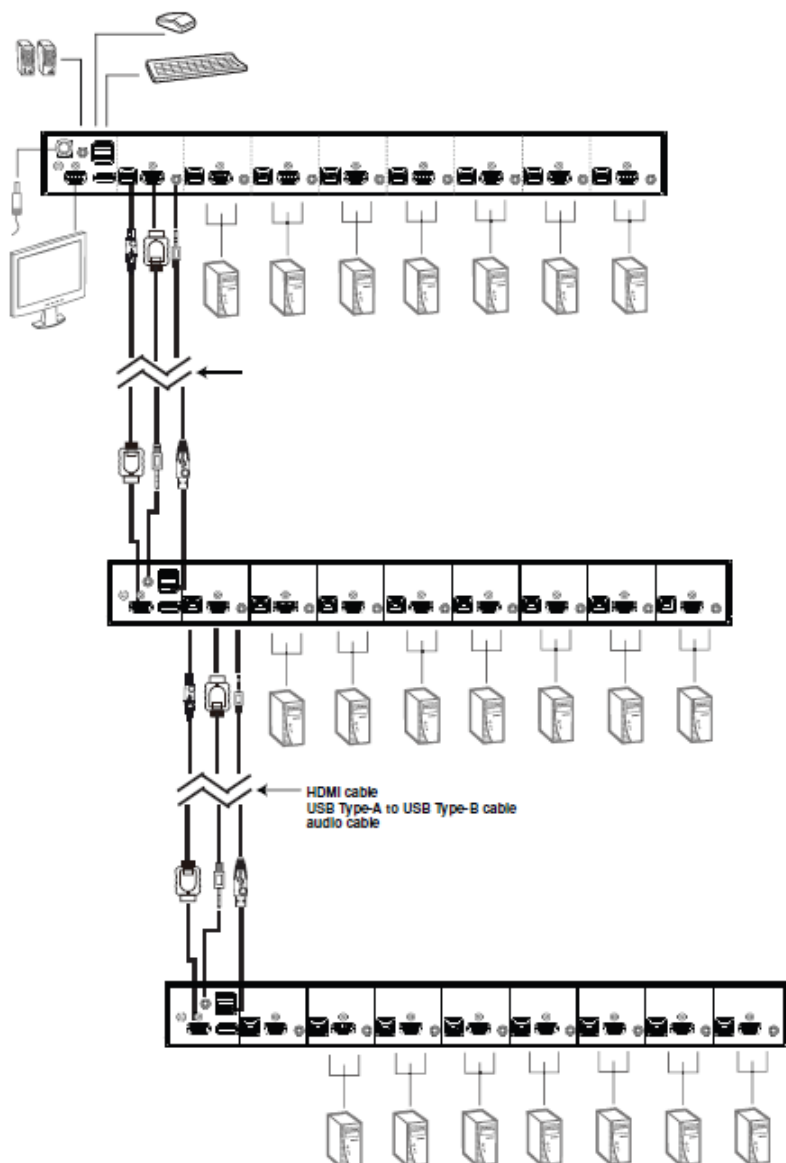
ケーブルの接続が完了したら(必要に応じて、p.19「2段階のカスケード接続」を参照)、以下の手順で電源を入れます。

1. 3段目で使用する各ユニットで、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続し、電源アダプターをAC電源に接続します。
2. 2段目で使用する各ユニットで、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続し、電源アダプターをAC電源に接続します。
3. 1段目で使用するユニットで、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックに接続し、電源アダプターをAC電源に接続します。
4. コンピューターの電源を入れます。

注意:

- ◆ 電源投入の順序は、3段目 → 2段目 → 1段目の順にオンにします。この順序ですべてのKVMスイッチの電源が入ったら、コンピューターの電源をオンにします。
 - ◆ カスケード接続の場合、1段目のUSB 2.0ハブには2段目および3段目のコンピューターからアクセスできません。
 - ◆ CS1798Aが接続するコンピューターおよびデバイスも正しく接地されていることを確認してください。
-

接続図(3段階のカスケード接続時)



マルチディスプレイのセットアップ

CS1798Aのマルチディスプレイ機能により、デュアル／トリプル／クアッド／マルチディスプレイ構成として2台、3台、4台、または最大8台のユニットを積み重ねて、最大7台のコンピューターを一度に制御できます。この機器構成では、標準のカスケード接続とはわずかに異なるケーブル配線が必要で、各コンピューターに複数のビデオカードが装着されているマルチディスプレイのシステムにおいて、より柔軟性の高い切替操作環境を提供します。

注意:

マルチディスプレイの機器構成において、CS1798AはCS1798Aユニットにのみ接続できます。

マルチディスプレイの機器構成におけるケーブル接続

マルチディスプレイでシステムを構築するには、次ページの接続図を参照して(図における番号は以下の手順に対応)、次の手順で作業します。

1. 別売ケーブル(2L-7D02HX2)のUSB Type-A→USB Type-Bケーブルを使用します。1段目のポート8にあるUSB Type-Bポートと、2段目のコンソールセクションにあるUSB Type-Aポートを接続してください。

注意:

KVMポート1～7を使用して、最大7台のコンピューターを接続できます(ポート8は、マルチディスプレイ構成でのユニット接続用に予約されています)。

2. HDMIケーブルを使用して、2台目のCS1798AのHDMI KVMポートとコンピューターの2番目のビデオ入力ポートを接続します。

注意:

ここで必要になるのは、HDMIビデオケーブルのみです。このセットアップでは、KVMセクションの他のポートは必要ありません。

3. ディスプレイを2番目のCS1798Aのコンソールセクションに接続します。
4. 追加のユニットに対して手順1～3を繰り返し、合計で最大8台のKVMスイッチを追

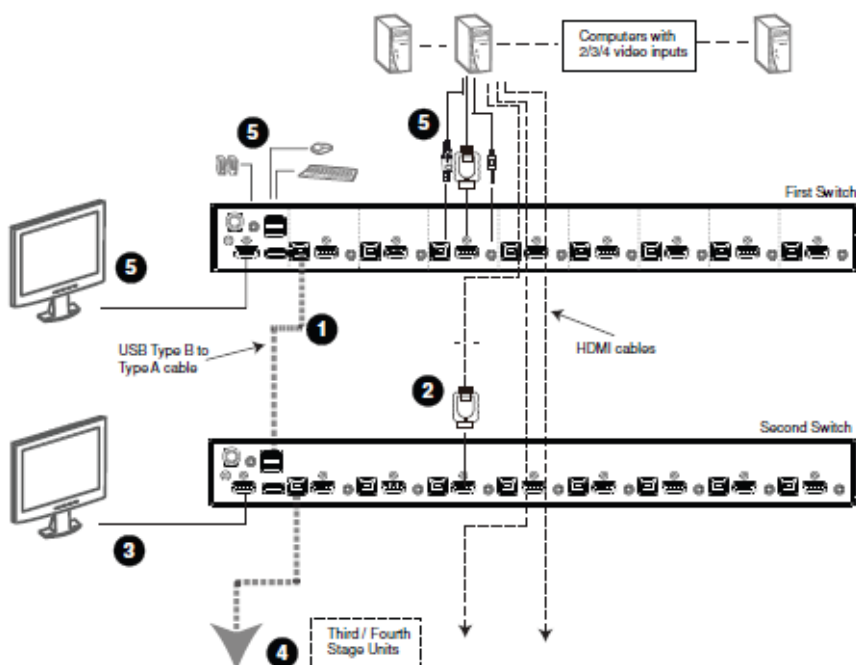
加します。

5. 1台目のCS1798Aでケーブルの接続を行います。詳細については、p.17「単体構成でのセットアップ」を参照してください。ビデオ、オーディオ、周辺機器はすべて、1台目のCS1798Aに接続する必要があります。
6. 1台目のCS1798Aから順番に電源を入れたら、コンピュータの電源を入れます。

注意:

CS1798Aが接続されているコンピュータとデバイスも正しく接地されていることを確認してください。

接続図(マルチディスプレイでの構成時)



「垂直」チャンネルに対するポートのグループ化

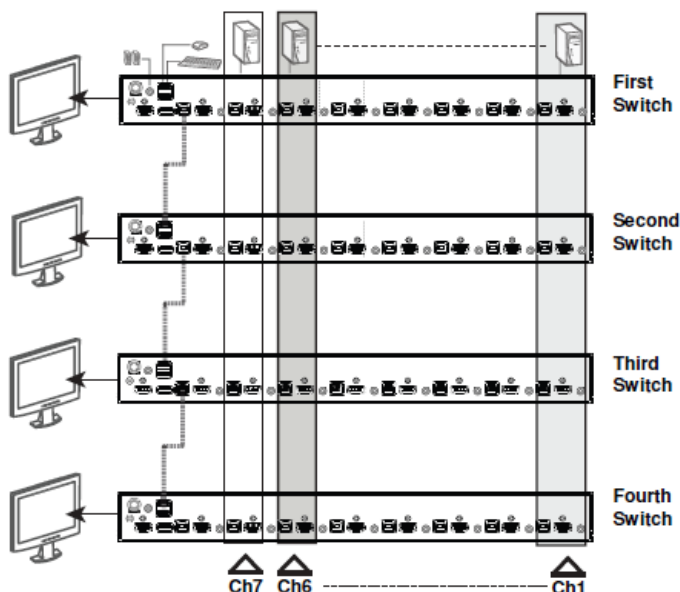
ケーブルが接続され、マルチディスプレイモードがOSDで選択されると、CS1798Aはチャンネルとディスプレイモードを自動検出します。このとき、ユーザーはポート名としてチャンネル番号を割り当てることができます(チャンネルは下図の縦の列で示しています)。これにより、各ユニットのポート1がチャンネル1、ポート2がチャンネル2というように、同じ番号のポートが1つのチャンネルにまとまります。ポートはすべて、チャンネル単位で一斉に切り替えられます。

積み重ねの段数に応じて、CS1798Aのシステムは、デュアルディスプレイ(2段)、トリプルディスプレイ(3段)、クアッドディスプレイ(4段)、マルチディスプレイ(最大8段)の表示構成を提供します。参考用として、この例では、クアッドディスプレイ機能を備えた4段階のシステムを示しています。

注意:

このモードでは、1段目のCS1798Aで任意のポートを選択すると、他のCS1798Aも同じポートを選択します。各CS1798Aごとでポート選択はできないのでご注意ください。

チャンネル接続図



第3章

基本操作

ホットプラグ

CS1798Aはホットプラグに対応しています。このため、製品本体の電源を切らなくても、ポートからケーブルを抜くことで周辺機器を取り外したり、ケーブルを接続することで機器をシステムに追加できます。ホットプラグを正常に動作させるには、以下の手順で操作します。

KVMポートのホットプラグ

OSDメニューをKVMポートの変更に対応させるには、新しいポート情報を反映するようにOSDを手動で再設定する必要があります。詳細は、「F3:SET」(p.35)、「F4:ADM」(p.37)の機能を参照してください。

注意:

コンピューターのOSがホットプラグに対応していない場合、この機能が正常に動作しない場合があります。

コンソールポートのホットプラグ

キーボード、モニター、およびマウスはすべてホットプラグ対応です。

- ◆ 同じマウスを使用している限り、マウスを抜いて差し直すことができます(例: マウスのリセットなど)。
- ◆ 別のマウスを接続する場合、すべてのコンピューターをシャットダウンし、約10秒間待ってから、p.19「2段階のカスケード接続」の手順6～8に記載されている電源投入の順序に従って再起動する必要があります。

注意:

ホットプラグ後、キーボードやマウス入力に応答がない場合は、フロントパネルにある7と8のプッシュボタンを同時に押してキーボードとマウスのリセットを実行してください。

ポート選択

CS1798Aには、システムにセットアップされているコンピューターにアクセスするために、3つのポート選択方法(手動、OSD(オンスクリーンディスプレイ)、ホットキー)が用意されています。詳細については、第4章「OSD操作」および第5章「ホットキー操作」を参照してください。

ポートの手動切替

フロントパネルのプッシュボタンを使用して、手動でポートを切り替えます。

ポートIDの付番

CS1798Aの各ポートには、固有のポートIDが割り当てられます。コンピューターが接続されているポートIDを指定すると、システム内の任意の段のコンピューターへ直接アクセスできます。指定方法は、OSD(p.30「OSD操作」参照)、またはホットキー(p.45「ホットキー操作」参照)の2通りです。

- ◆ プライマリーユニットに接続されているコンピューターには、接続されているKVMポート番号に対応する2桁のポートID(01~08)が割り当てられます。
- ◆ セカンダリーユニットに接続されたコンピューターには、4桁のポートIDが割り当てられます。

前半の2桁はプライマリーユニットのKVMポート番号を表し、後半の2桁はコンピューターが接続されているセカンダリーユニットのKVMポート番号を表します。例えば、「02-08」というポートIDは、プライマリーユニットの KVM ポート 2 に接続されたセカンダリーユニットのうち、KVM ポート 8 に接続されているコンピューターであることを表します。

電源オフと再起動

CS1798Aの電源を切る必要が生じた場合は、再起動を行う前に以下の操作を行ってください。

1. 製品本体に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンします。
2. CS1798Aの電源アダプターのプラグをコンセントから抜きます。

注意:

キーボード電源オン機能を持つコンピューターは、電源ケーブルも抜いてください(PC から CS1798A に電力が供給され続けるため)。

3. 10秒以上経ってから、CS1798Aを接続し直します。
4. コンピューターの電源を入れます。

注意:

複数台のCS1798Aを使用してカスケード接続を構築している場合は、マスター機(1段目)に接続されたコンピューターだけでなく、カスケード接続されたすべてのCS1798A本体と、それらに接続されたコンピューターもシャットダウンしてください。

第4章

OSD操作

概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は、マウスとキーボードで操作できるメニュー形式のインターフェースです。ここから、コンピュータを操作したり切替操作ができます。すべての手順は、OSDメイン画面から開始します。

製造番号

「MFG番号」(製造番号)は、ATENの工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証期間に影響することはありません。お使いの製品に関して購入後のサービスが必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATENの営業または技術サポートのスタッフに、このMFG番号をお伝えください。

OSDへのログイン

OSDには、2段階のユーザーレベル(アドミニストレーター／ユーザー)での認証システムが組み込まれています。OSDメイン画面が表示される前に、パスワードを要求するログイン画面が表示されます。OSDを初めて使用する場合、またはパスワード機能が設定されていない場合は、[Enter] を押すとOSDメイン画面がアドミニストレーター(管理者)モードで表示されます。このモードでは、すべてのアドミニストレーター機能およびユーザー機能にアクセスできる権限を持ち、必要に応じて操作(パスワード認証を含む)を設定できます。パスワード機能が設定されている場合は、OSDにアクセスするために適切なアドミニストレーター／ユーザーのパスワードを入力する必要があります。

OSDホットキー

[Scroll Lock] キーを2回押すと、CS1798Aの任意のポートの表示を見ながら、コンソールモニターにOSDを表示できます。

注意:

オプションで、OSDホットキーを [Ctrl] キーに変更できます。その場合は、[Ctrl] を2回押してください(p.35「OSD HOTKEY」参照)。このとき、左右どちらか同じ側の [Ctrl] キーを2回押す必要があります。

OSDメイン画面

OSDを起動すると、次のような画面が表示されます。



注意:

- 図は、管理者のメイン画面を示しています。ユーザーのメイン画面には、F4 および F6 機能が表示されません。これらは管理者用に予約されており、ユーザーはアクセスできないためです。
 - OSDは常にリスト表示で開始し、最後に閉じたときと同じ位置にハイライトバーが表示されます。
 - 現在ログインしているユーザーに対して管理者がアクセスできるように設定されているポートのみが表示されます(p.38「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)。
 - ポートリストが折りたたまれている場合は、スイッチ番号をクリックするか、ハイライトバーを移動してから右矢印キーを押してリストを展開します。同様に、スイッチのポートリストを折りたたむには、スイッチ番号をクリックするか、ハイライトバーを移動してから左矢印キーを押してリストを折りたたみます。
-

OSDメイン画面の見出し

PN	この列には、システムにおけるすべてのKVMポートのポートID番号が一覧表示されます。特定のコンピューターにアクセスする最も簡単な方法は、ハイライトバーを移動してから [Enter] キーを押す操作です。
QV	ポートがクイックビューのスクリーン用に選択されている場合 (p.40「SET QUICK VIEW PORTS」参照)、この列に矢印が表示されます。
	電源が入っていてオンラインになっているコンピューターには、この列に太陽のマークが表示されます。
名前	ポートに名前が付けられている場合 (p.39「EDIT PORT NAMES」参照)、その名前がこの列に表示されます。

OSD操作

- ◆ メニューを閉じ、OSDを無効にするには、OSDウィンドウの右上隅にある「×」をクリックするか、**[Esc]** を押します。
- ◆ ログアウトするには、メイン画面上部の「F8」をクリックするか、**[F8]** を押します。
- ◆ リスト内を1行ずつ上下に移動するには、上下の三角形記号 (▲▼) をクリックするか、上下の矢印キーを使用します。メイン画面で1画面を超える項目がある場合は、画面がスクロールします。
- ◆ リスト内を1画面ずつ上下に移動するには、上下の矢印記号 () をクリックするか、キーボードの[Pg Up] キーと [Pg Dn] キーを使用します。メイン画面で1画面を超える項目がある場合は、画面がスクロールします。
- ◆ ポートをアクティブにするには、ポートをダブルクリックするか、ハイライトバーをそのポートに移動して **[Enter]** を押します。
- ◆ いずれかのアクションを実行すると、1つ上のレベルのメニューへと自動的に戻ります。

OSD機能

OSD 機能は、OSD の設定や操作に使用されます。例えば、次の操作が行えます。

- ◆ 任意のポートへの切り替え
- ◆ 選択ポートのスキャン
- ◆ 表示リストの絞り込み
- ◆ クイックビューポートの指定
- ◆ ポート名の作成・編集
- ◆ OSD 設定の調整

OSD機能には、次の方法でアクセスします。

- ◆ メイン画面上部にあるファンクションキーのフィールドをクリックするか、キーボードのファンクションキーを押します。
- ◆ 表示されるサブメニューで、目的の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目に移動し **[Enter]** を押して、その項目を選択します。
- ◆ 前のメニューレベルに戻るには、**[Esc]** キーを押します。

F1:GOTO

「F1」をクリックするか **[F1]** を押すと、GOTO機能が有効になります。GOTOでは、ポート名またはポートIDを入力することで、ポートに直接切り替えます。個別切替を行う場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

- ◆ ポート名の入力で切り替える場合は、**1**を入力し、ポート名を入力します。
[Enter] を押すとKVM・オーディオ・USBの選択が切り替わり、**スペースキー**を押すとKVMとオーディオの選択のみを切り替えます。
- ◆ ポートIDの入力で切り替える場合は、**2**を入力し、ポートIDを入力します。
[Enter] を押すと、KVM・オーディオ・USBの選択が切り替わり、**スペースキー**を押すとKVMとオーディオの選択のみを切り替えます。

注意:

入力欄には、ポート名またはポート IDの一部を入力することもできます。この場合、現在のリスト設定 (p.34「F2:LIST」参照) は反映されません。入力したパターンに一致し、かつユーザーが表示権限を持つコンピューターが、すべて画面に表示されます (p.38「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)。

選択せずにOSDメイン画面に戻るには、**[Esc]** を押します。

F2:LIST

この機能を使用すると、OSD がメイン画面に表示するポートの範囲を調整できます。サブメニューの各オプションと説明は下表のとおりです。

オプション	意味
ALL(すべて)	システム上で、ログイン中のユーザーがアクセスできるすべてのポートを一覧表示します。
QUICK VIEW (クイックビュー)	クイックビューポートに指定されているポートのみを一覧表示します (p.40「SET QUICK VIEW PORTS」参照)。
POWERED ON (電源ON)	接続されているコンピューターの電源が入っているポートのみを一覧表示します。
QUICK VIEW + POWERED ON (クイックビュー + 電源オン)	クイックビューポートとして選択されていて (p.40「SET QUICK VIEW PORTS」参照)、接続されたコンピューターの電源がオンになっているポートのみを一覧表示します。

ハイライトバーを目的の項目に移動し、**[Enter]** を押します。選択されている項目には、現在の状態を示すアイコンが表示されます。

F3:SET

アドミニストレーターを含む各ユーザーは、自分の操作環境を設定できます。各プロフィールは OSD に保存され、ログインしたユーザーネームに応じて設定が適用されます。

設定を変更するには、次の手順で操作します。

1. 目的の項目をダブルクリックするか、その項目までハイライトバーを移動して **[Enter]** を押します。
2. 項目を選択すると、サブメニューが表示されます。目的の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目に移動して **[Enter]** を押すと選択できます。選択された項目の前には、状態を示すアイコンが表示されます。設定については、次の表で説明します。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSDホットキー)	OSD機能を有効にするホットキーを選択します。選択できるホットキーは次のとおりです。 [Scroll Lock][Scroll Lock] または [Ctrl][Ctrl] デフォルトは [Scroll Lock][Scroll Lock] です ([Ctrl] キーの組み合わせは、実行中のプログラムと競合する可能性があるため)。
PORT ID DISPLAY POSITION (ポートIDの表示位置)	ポート ID が画面上に表示される位置を設定できます。デフォルトは左上です。 マウス、または矢印キーと [Pg Up] 、 [Pg Dn] 、 [Home] 、 [End] 、 [5] (テンキーの [Num Lock] をオフ)を使用して表示位置を調整し、ダブルクリックするか [Enter] を押して位置を確定します。位置を確定すると、 [Set] サブメニューに戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (ポートID表示時間)	ポートの変更後に、ポートIDがモニターに表示される時間を決定します。オプションは、 3秒 (デフォルト) と 常時オフ です。
PORT ID DISPLAY MODE (ポートID表示モード)	ポートIDの表示方法を選択します。選択できるパターンは、「ポート番号とポート名」(PORT NUMBER + PORT NAME 。デフォルト)、「ポート番号のみ」(PORT NUMBER)、または「ポート名のみ」(PORT NAME)です。

設定	機能
SCAN DURATION (スキャン インターバル)	オートスキャンモードで各ポートを表示する時間(スキャンインターバル)を設定します(p.43「F7: SCAN」参照)。値(1~255秒)を入力したら、[Enter]を押します。デフォルトは5秒です。0に設定すると、スキャン機能は無効になります。 注意: オートスキャンを実行するには、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。
SCAN-SKIP MODE (スキャン - スキップ モード)	スキップモード(p.41「F5:SKP」参照)およびオートスキャンモード(p.43「F7: SCAN」参照)でアクセスするコンピューターを選択します。オプションは次のとおりです。 ALL - アクセスできるすべてのポート(p.38「SET ACCESSIBLE PORTS」参照) QUICK VIEW - アクセス可能で、クイックビューポートとして選択されているポートのみ(p.40「SET QUICK VIEW PORTS」参照) POWERED ON - アクセスできて、電源がオンになっているポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON - アクセス可能で、クイックビューポートとして選択され、かつ電源がオンのポートのみ。デフォルトはALLです。 注意:クイックビューはアドミニストレーターにしか操作権限が与えられていないため、このオプションはアドミニストレーター以外には表示されません(p.40「SET QUICK VIEW PORTS」参照)。 スキャン-スキップモードを実行するには、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。
SCREEN BLANKER (スクリーンブランカー)	コンソールからの入力がないまま、この項目で設定した時間が経過すると、画面は空白になります。値(1~30分)を入力したら、[Enter]を押します。0を設定すると、この機能は無効になります(デフォルト設定)。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーコマンド モード)	コンピューターで実行されているプログラムとの競合が発生した場合に、ホットキーコマンド機能を有効または無効にします。

設定	機能
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを起動するためのキーボードショートカットを設定します (p.46「ホットキー設定モード」参照)。オプションは、「NUM LOCK + -」(マイナス)(デフォルト)、および「CTRL + F12」です。
OSD LANGUAGE (OSD言語)	OSDで使用する言語を設定します。オプションは、英語(デフォルト)、ドイツ語、日本語、簡体字中国語、繁体字中国語、スペイン語、フランス語、およびロシア語です。

F4:ADM

F4 はアドミニストレーター専用の機能で、OSD の全体的な動作を設定・制御できます。設定を変更するには、目的の項目をダブルクリックするか、上下の矢印キーでハイライトバーをその項目に移動して **[Enter]** を押します。

項目を選択すると、サブメニューが表示されます。サブメニューを選択するには、目的の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをその項目に移動して **[Enter]** を押します。選択された項目の前には、状態を示すアイコンが表示されます。設定については、次の表で説明します。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの設定)	アドミニストレーターとユーザーのユーザーネームとパスワードを設定します。 - アドミニストレーター1名とユーザー4名のユーザーネームとパスワードを設定できます。 - アドミニストレーターまたは任意のユーザーのフィールドを選択すると、ユーザーネームとパスワードの入力画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードの長さは1~16文字で、半角英数字、半角スペース、および一部の半角記号(* () + - , ? . /)を使用します。 - ユーザーネームとパスワードを入力したら、パスワードを確認して、[Enter] を押します。 - 入力済みのユーザーネームやパスワードを変更または削除するには、[Backspace] キーを使用して個々の文字や数字を消去します。入力が完了したら、[Enter] を押します。 注意: ユーザーネームとパスワードは、大文字と小文字が区別されません。OSDでは、ユーザーネームが大文字で表示されます。

設定	機能
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセス可能な ポート)	アドミニストレーターはシステム上のコンピューターへのユーザーアクセスをポート単位で設定できます。 ユーザーごとに目的のポートを選択し、スペースキーを押して「F」(フルアクセス)、「V」(参照のみ)、または空白のオプションを順に切り替えて設定します。すべてのアクセス権が設定されるまで繰り返し、[Enter]を押して決定します。デフォルトでは、すべてのポートにおいて、すべてのユーザーがフルアクセスできるように設定されています(Fを設定)。 注意: ◆ 設定が空白になっているものは、アクセス権が設定されていません。このポートは、メイン画面のユーザーのリストに表示されません。 ◆ アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセス可能です。
SET LOGOUT TIMEOUT (ログアウト タイムアウトの 設定)	コンソールからの入力がないまま、この項目で設定した時間が経過すると、自動的にログアウトします。コンソールを再度使用するには、ログインが必要です。 この機能により、前のユーザーがログアウトし忘れた場合でも、設定した時間が経過すると自動的にログアウトされるため、他のユーザーがコンピューターにアクセスできるようになります。 タイムアウト値を設定するには、値(1~180分)を入力し、[Enter]を押します。0を設定すると、この機能は無効になります(デフォルト)。 注意: ログインモードの設定が無効の場合、この機能は動作しません。 p.41「SET LOGIN MODE」を参照してください。

設定	機能
EDIT PORT NAMES (ポート名の編集)	接続されているコンピューターを識別しやすくするために、各ポートに名前を設定できます。この機能を使用すると、アドミニストレーターはポート名の作成・変更・削除が行えます。 ポート名を編集するには、次の手順で操作します。 1. ポートをクリックするか、ナビゲーションキーを使用してそのポートまでハイライトバーを移動し、[Enter] を押します。 2. 新しいポート名を入力するか、古いポート名を変更・削除します。ポート名に使用できる最大文字数は12文字です。次の文字が入力可能です。 ◆ 半角英字 (A～Z) ◆ 半角数字 (0～9) ◆ 半角記号 (* () + : - , ? . /) 大文字と小文字は区別されません。OSDでは、入力方法に関係なく、ポート名がすべて大文字で表示されます。 3. 編集が終了したら、[Enter] を押して変更を有効にします。変更を中止するには、[Esc] を押します。
RESTORE DEFAULT VALUES (デフォルト値の復元)	保存されているポート名リスト、ユーザーネーム、パスワード情報を除き、すべての変更を取り消し、工場出荷時の設定 (p.76参照)に戻します。
CLEAR THE NAME LIST (名前一覧の消去)	ポート名一覧を消去します。
ACTIVATE BEEPER (ビープ音の有効化)	オプションは「Y」(オン)または「N」(オフ)です。この機能をオンにすると、ポートを切り替えたとき、オートスキャン機能を有効にしたとき、または OSD メニューで無効な入力を行ったときにビープ音が鳴ります。デフォルトは「Y」です。

設定	機能
SET QUICK VIEW PORTS (クイックビュー ポートの設定)	この機能では、アドミニストレーターがクイックビューの対象とするポートを選択できます。 ◆ クイックビューの対象ポートを選択／解除するには、目的のポートをダブルクリックするか、ナビゲーションキーでハイライトバーをそのポートに移動し、スペースキーを押します。 ◆ ポートをクイックビューに設定すると、メイン画面のリストにある「QV」列にアイコンが表示されます。選択を解除すると、アイコンは消えます。 ◆ リストビューでクイックビューのオプションが選択されている場合 (p.34「F2:LIST」参照)、ここで選択したポートのみがリストに表示されます。 ◆ オートスキャンにクイックビューのオプションが選択されている場合 (p.36「SCAN-SKIP MODE」参照)、ここで選択したポートのみがオートスキャンの対象となります。 デフォルトでは、クイックビューに設定されたポートはありません。
SET OPERATING SYSTEM (OSの設定)	この機能を使用すると、アドミニストレーターは各KVMポートに接続されているコンピューターのOSを設定できます。デフォルトはWin (PC互換) です。 ポートのOSを設定するには、次の手順で操作します。 1. リストから、コンピューターのOSを設定するポートを選択します。 2. スペースキーを押して設定値 (Win、Mac、Sun、その他) を切り替えて、OSを設定します。 3. [Esc] を押して終了すると、選択したOSがKVMポートに割り当てられます。
FIRMWARE UPGRADE (ファームウェア アップグレード)	製品本体のファームウェアをアップグレードするには (p.60参照)、まず、この設定でファームウェアアップグレードモードを有効にする必要があります。 このメニューを表示すると、現在のファームウェアバージョンレベルが表示されます。「Y」を選択すると、ファームウェアアップグレードモードを有効にします。また、「N」を選択すると、有効にせずにこのメニューを終了します。

設定	機能
KEYBOARD LANGUAGE (キーボード言語)	KVMポートに接続されているコンピューターのキーボード言語を設定します。言語を選択するには、その言語をダブルクリックするか、ナビゲーションキーを使用してハイライトバーを移動し、[Enter] を押してください。 オプションは、AUTO(デフォルト)、英語(アメリカ)、英語(イギリス)、ドイツ語(ドイツ)、ドイツ語(スイス)、フランス語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ロシア語、スペイン語、スウェーデン語、繁体字中国語、簡体字中国語です。
MOUSE EMULATION (マウス エミュレーション)	マウスエミュレーション機能を有効／無効にします。 注意: この機能は 1 段目の KVM スイッチでのみサポートされます。マウスエミュレーションを有効にすると、ポートの個別切替が可能になり、オートスキャンモードまたはスキップモードが使えるようになります。
ACTIVATE MULTI-DISPLAY (マルチディスプレイの 有効化)	複数のビデオカードを搭載したコンピューターでマルチディスプレイ構成を使用する場合は、マルチディスプレイモード(デュアル/トリプル/クアッド)を有効にしてください。詳細については、p.24「マルチディスプレイのセットアップ」を参照してください。 注意: ケーブルを接続する前に、OSD でマルチディスプレイモードを有効にする必要があります。
OSD CONFIG BACKUP / RESTORE (OSD設定の バックアップ/復元)	OSD 設定のバックアップ／復元モードを開始します。ファームウェア管理ユーティリティでは、CS1798A の現在の OSD 設定をバックアップまたは、復元ができます。同じ設定を複数のシステムに適用する場合は、OSD 設定を保存しておくと便利です。詳細については、p.66「OSD 設定のバックアップ／復元」を参照してください。
SET LOGIN MODE (ログインモードの設定)	本体起動時のログイン(認証)を要求するかどうかを設定します。無効にするとログイン画面は表示されなくなります。設定を保存すると、再起動後も設定内容は維持されます。

F5:SKP

「F5」をクリックするか[F5]を押すと、スキップ(SKIP)モードが起動します。この機能を使用すると、現在選択中のポートから、前後の利用可能なポートへ順に切り替えられます。スキップモードを実行するには、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

- ◆ スキップモードの対象となるコンピューターは、「F3:SET」機能(p.35参照)の「SCAN-SKIP MODE」設定で選択できます。
- ◆ スキップモードの場合:
 - [←]を押すと、リスト内の前のアクセス可能なポートにスキップします。
 - [→]を押すと、リスト内の次のアクセス可能なポートにスキップします。
 - [↑]を押すと、前のアクセス可能ポートにスキップします。前のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチである場合は、そのスイッチの最後のアクセス可能なポートにスキップします。
 - [↓]を押すと、次のアクセス可能なポートにスキップします。次のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチである場合は、そのスイッチの最初のアクセス可能なポートにスキップします。

注意:

スキップ操作を行うと、「SCAN-SKIP MODE」で選択されている使用可能なコンピューターのうち、前後のコンピューターにのみ移動します(p.36参照)。

- ◆ スキャン - スキップモードでポートが選択されている場合、そのポートに切り替わると、ポート ID の前に左右の三角形の記号が表示されます。この記号が付いたポート ID が表示されている間、背景画面は空白になります。
- ◆ スキップモードが有効な間、キーボードとマウスの操作は受け付けなくなっています。操作する場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ◆ 選択したポートが表示されると、スキップモードは自動的に無効になります。
- ◆ スキップモードを終了するには、**スペースキー**または [Esc] を押します。

F6:BRC

F6 はアドミニストレーター専用の機能です。「F6」をクリックするか [F6] を押すと、ブロードキャスト(BRC)モードが起動します。この機能が有効な間は、コンソールから送信されたコマンドが、システム内の使用可能なすべてのコンピューターに一斉送信されます。

この機能は、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール／アップグレードなど、複数のコンピューターで同じ操作を一括で実行する際に特に有用です。

- ◆ BRC モードが有効な間は、現在選択中のポートのポート ID の前にスピーカーの記号が表示されます。スピーカーの記号の付いたポートIDが表示されると、背景画面は空白になります。
- ◆ BRCモードが有効な間、マウスの操作入力は受け付けられなくなります。マウス操作をしたい場合は、BRCモードを終了する必要があります。
- ◆ BRC モードを終了するには、(OSD ホットキーで) OSD を起動し、「F6」をクリックするか [F6] を押して BRC モードをオフにします。
- ◆ BRC モードが有効になると、Scroll Lock LED が点滅します。BRC を終了すると、LED は点滅を停止し、通常の状態に戻ります。

F7:SCAN

「F7」をクリックするか [F7] を押すと、オートスキャンモードが起動します。この機能を使用すると、利用可能なコンピューターを一定の時間間隔で、自動で切り替えていくため、切替操作の手間を省いて各コンピューターのアクティビティーを監視できます。オートスキャンを実行するには、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

- ◆ オートスキャンの対象となるコンピューターは、「F3:SET」機能の「SCAN-SKIP MODE」(p.36参照)で選択します。
- ◆ 各ポートの表示時間は、「F3:SET」機能の「SCAN DURATION」で設定します (p.36参照)。特定の場所で停止したい場合は、スペースキーを押します。
- ◆ 空のポート、またはコンピューターが接続されているものの電源がオフのポートでスキャンが停止した場合、モニター画面は空白になり、マウスとキーボードは無効になります。指定したスキャンインターバルの時間が経過すると、スキャン機能は次のポートに移動します。

- ◆ アクセス中のポートでは、ポート ID の前に「S」が表示され、オートスキャンモードでアクセスされていることを示します。記号が付いたポートIDが表示されると、背景画面は空白になります。
- ◆ オートスキャンモード中は、キーボードとマウスの操作は受け付けなくなっています。操作するには、オートスキャンモードを終了する必要があります。
- ◆ オートスキャンモード中に [P] を押すかマウスを左クリックすると、スキャンを一時停止し、特定のコンピューターを表示したままにできます。詳細はp.48「オートスキャンの起動」を参照してください。
- ◆ オートスキャンモードを終了するには、スペースキーまたは [Esc] を押します。

F8:LOUT

「F8」をクリックするか [F8] を押すと、OSD からログアウトします。ログアウトすると、コンソール画面は空白になります。

この操作は、メイン画面で [Esc] を押して OSD を一時的に無効にする方法とは異なります。[Esc] の場合は、OSD ホットキーを押すだけで OSD に戻れますが、ログアウト機能を使用した場合は、OSD に再びアクセスするために再ログインが必要になります。

注意:

1. ログアウト後に OSD に再度アクセスすると、OSD メイン画面以外は空白のままです。続行するには、ユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
 2. ログアウト後に OSD に再度アクセスし、そのままポートを選択せずに [Esc] を押して OSD を非アクティブにすると、画面に「NULL PORT」メッセージが表示されます。OSD ホットキーを押すと、メイン OSD 画面が表示されます。
-

第5章

ホットキー操作

ホットキーによるポート操作

ホットキーを使用すると、KVM の操作対象とするコンピューターをキーボードから直接選択できます。本製品には、以下のポート操作用ホットキーがあります。

- ◆ アクティブポートの選択
- ◆ オートスキャンモードの切り替え*
- ◆ スキップモードの切り替え*
- ◆ コンピューター上でのキーボード / マウスのリセット
- ◆ マウスエミュレーションの有効化/無効化*

HSMモードでは、以下の設定も行えます。

- ◆ ビープ音の設定
- ◆ クイックホットキーの設定
- ◆ OSDホットキーの設定
- ◆ ポートOSの設定
- ◆ OSDデフォルト値の復元

注意:

ポートの個別切替を行ったり、オートスキャンモードまたはスキップモードを使用したりする場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

ホットキー設定モード

ホットキー設定モードは、CS1798Aの設定に使用します。すべての操作は、ホットキー設定モード(HSM)の起動で始まります。

HSMの起動

HSMを起動するには、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock]** キーを押したままにします。
2. **[-]** キーを押して離します。
3. **[Num Lock]** キーから指を離します。この一連の操作は次のように表記します。

[Num Lock] + [-]

または

1. **[Ctrl]** キーを押したままにします。
2. **[F12]** キーを押して離します。
3. **[Ctrl]** キーから指を離します。この一連の操作は次のように表記します。

[Ctrl] + [F12]

HSMがアクティブになると、次の動作が見られます。

- ◆ モニター画面にコマンドラインが表示されます。プロンプトには「HOTKEY:」が青背景・白文字で表示され、その後に入力したホットキーが続きます。
- ◆ 通常のキーボードとマウスの機能は一時停止され、ホットキーとして有効なキー入力(以下のセクションで説明)のみが受け付けられます。

[Esc]を押すと、HSMが終了します。

アクティブポートの選択

各KVMポートにはポートIDが割り当てられています(p. 28「ポートIDの付番」参照)。コンピューターが接続されているKVMポートのポートIDを、ホットキーの組み合わせで指定することによって、システム上の任意のコンピューターに直接アクセスできます。ホットキーを使用してコンピューターにアクセスするには、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。

2. ポートIDを入力します。

ポートIDの番号を入力すると、コマンドラインにその番号が表示されます。間違えた場合は、**[Backspace]**を使用して消去してください。

3. **[Enter]**を押します。

[Enter]を押すと、指定されたコンピューターにKVM操作が切り替わり、自動的にホットキーモードを終了します。

注意:

ホットキーモードにおいて、無効なKVMスイッチまたはポート番号が指定された場合、ポートに対するKVM操作の切り替えは行われません。有効なスイッチおよびポート番号の組み合わせを入力するか、ホットキーモードを終了するまで、ホットキーのコマンドラインが画面に表示され続けます。

オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、アクセス可能なすべてのKVMポートを、一定の時間間隔で巡回して切り替えるため、動作の監視が自動的に行えます。詳細は、p.36「SCAN-SKIP MODE」を参照してください。

オートスキャンの起動

オートスキャンを開始するには、次の手順で操作します。

1. マウスエミュレーションを有効にします (p.41 参照)。
2. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
3. **[A]**を押してから**[Enter]**を押すと、ホットキーモードが自動的に終了し、オートスキャンモードに入ります。
 - ◆ オートスキャンモード中に **[P]** を押すかマウスを左クリックすると、スキャンを一時停止し、特定のコンピューターを表示したままにできます。オートスキャンの一時停止中、コマンドラインには「**AUTO SCAN:PAUSED**」と表示されます。
 - ◆ 特定のコンピューターを表示し続けたい場合は、モードを終了せず一時停止をご利用ください。一時停止ではスキャンを中断した位置から再開できますが、終了して再度実行した場合は、接続構成内の最初のポートからスキャンがやり直しになります。

一時停止中に任意のキーを押すかマウスを左クリックすると、中断していた位置からスキャンが再開されます。

 - ◆ オートスキャンモードが有効な間は、通常のキーボードおよびマウスの機能は使用できません。この間に受け付けられるのは、オートスキャンモードに対応したキー入力とマウスクリックのみです。コンソールの通常操作に戻るには、オートスキャンモードを終了します。
4. オートスキャンモードを終了するには、**[Esc]** または **スペースキー**を押してください。オートスキャンモードを終了すると、オートスキャンは停止します。

注意:

ポートの個別切替を行ったり、オートスキャンモードまたはスキップモードを使用したりする場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

スキップモード

この機能を使用すると、手動監視用にコンピューターを切り替えることができます。オートスキャン機能が一定の時間間隔で自動的にポートを切り替えるのに対し、スキップモードでは時間を気にせず特定のポートに常駐したりキーボード操作でポート切り替えができます。スキップモードを起動するには、次のホットキーを入力してください。

1. マウスエミュレーションを有効にします (p.41 参照)。
2. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** で HSM を起動します。
3. 対象となるポートに応じて **カーソルキー** を押します。
 - ◆ この操作でホットキーモードが終了し、スキップモードに切り替わります。各キーで次のようにポートを切り替えます。

←	前のアクセス可能なポートにスキップします (p.36「SCAN-SKIP MODE」参照)。
→	次のアクセス可能なポートにスキップします。
↑	前のアクセス可能なポートにスキップします。前のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチにある場合、そのスイッチの最後のアクセス可能なポートにスキップします。
↓	次のアクセス可能なポートにスキップします。次のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチにある場合、そのスイッチの最初のアクセス可能なポートにスキップします。

- ◆ スキップモードに入ったら、カーソルキーだけでスキップを続けられます。
[Num Lock] + [-] や **[Ctrl] + [F12]** を再度押す必要はありません。
 - ◆ スキップモード中は通常のキーボードとマウス操作が無効になり、スキップモード専用のキー入力だけが有効になります。通常操作に戻るには、スキップモードを終了してください。
4. スキップモードを終了するには、**[Esc]** または **スペースキー** を押します。

注意:

ポートの個別切替を行ったり、オートスキャンモードまたはスキップモードを使用したりする場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください (p.41 参照)。

キーボード／マウスのリセット

選択中のポートに接続されているコンピューターでキーボードまたはマウスが動作しなくなった場合は、キーボード／マウスのリセットを実行できます。このリセットは、対象コンピューターでキーボードとマウスを抜き差しして再接続した場合と同等の効果が得られます。

リセットを行うには、次のホットキーを入力します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[F5]** を押します。

[F5] を押すと、自動的にホットキーモードを終了し、KVM ポートに接続されているコンピューターのキーボードとマウスの操作が復帰します。[F5] を押してもキーボードやマウスの操作が回復しない場合は、コンソールキーボードとマウスのリセットを実行してください。詳細については、p.7「ポート選択ボタン」を参照してください。

ホットキーによるビーブ音の制御

ビーブ音 (p.39「ACTIVATE BEEPER」参照) のオン／オフは、ホットキーで切り替えられます。デフォルトでは、有効に設定されています。ビーブ音を無効にするには、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[B]** を押します。

[B] を押すとビーブ音のオン／オフが切り替わり、コマンドラインに「Beeper On」または「Beeper Off」が 1 秒間表示されます。メッセージが消えると、HSMが自動的に終了します。

クイックホットキーの制御

クイックホットキー (p.37「HOTKEY」参照) は、[Num Lock] + [-] と [Ctrl] + [F12] のいずれかに切り替えることができます。クイックホットキーの切り替えは、次の手順で操作します。

1. [Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] でHSMを起動します。
2. [H] を押します。

[H] を押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示されます。メッセージが消えると、HSMが自動的に終了します。

OSDのホットキー操作

OSDホットキー (p.35「OSD HOTKEY」参照) は、[Scroll Lock][Scroll Lock]、[Ctrl][Ctrl] のいずれかに切り替えることができます。OSDホットキーの切り替えは、次の手順で操作します。

1. [Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12] でHSMを起動します。
2. [T] を押します。

[T] を押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示されます。メッセージが消えると、自動的にHSMを終了します。

ポートOSの操作

ポートOSは、ポートに接続されているコンピューターのOSに合わせて変更できます。ポートOSの変更は、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. 下表を参照し、機能に対応する**ファンクションキー**を入力します。

キー	説明
F1	ポートOSをWindowsに設定します。
F2	ポートOSをMacに設定します。
F3	ポートOSをSunに設定します。

ファンクションキーを押すと、HSMは自動的に終了します。

USB転送速度の設定

接続されているコンピューターに合わせて、選択した KVM ポートの USB 速度をホットキーで「Low Speed」または「Full Speed」に設定できます。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[F11] [L]** または **[F11] [F]** を押します。
3. **[Enter]** を押します。

[L] は、選択したKVMポートが「USB Low Speed」に設定されていることを示します。

[F] は、選択したKVMポートが「USB Full Speed」に設定されていることを示します。

選択した KVM ステーション (CS1798Aとカスケード接続された KVM スイッチ全体) のすべての KVM ポートを設定するには、**[L]** または **[F]** キーを押した後で **[A]** キーを押します。設定する USB 転送速度に応じて、ホットキーモードで **[F11] [L] [A] [Enter]** または **[F11] [F] [A] [Enter]** を押してください。

デフォルト値の復元

このホットキーは管理者専用で、CS1798Aのデフォルト値を復元します (p.39「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)。復元するには、次のホットキーを入力します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[R]** を押します。
3. **[Enter]** を押します。

[Enter] を押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが 3 秒間表示されます。メッセージが消えると、自動的にHSMを終了します。

キーボード／マウスのリセット

USB通信が一時的に停止し、リセットする必要がある場合は、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[F5]** を押します。

ビデオダイナシンク

ビデオダイナシンクは、起動時の表示トラブルを回避し、ポート切替時の解像度を最適化する ATEN 独自の技術です。この機能を起動するには、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[D]** を押します。

注意:

ディスプレイが切断され、再接続されると、CS1798A はビデオダイナシンクを再実行します。

マウスエミュレーションの制御

デフォルトでは、この機能は有効に設定されています。無効にするには、次の手順で操作します。

1. **[Num Lock] + [-]** または **[Ctrl] + [F12]** でHSMを起動します。
2. **[M]** を押します。

本操作は、実行するたびに有効／無効が切り替わります。有効にするには、この操作を繰り返してください。

注意:

ポートの個別切替を行ったり、オートスキャンモードまたはスキップモードを使用したりする場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

HSM一覧表

各機能を実行するには、HSM を起動して (p.46参照)、対応するキーを入力してください。

キー	機能
[PN][Enter]	KVM、オーディオ、USB の操作対象を、そのポート ID に対応するコンピューターに直接切り替えます (PN=ポート番号)。
[PN][K][Enter]	KVM の操作対象を、そのポート ID に対応するコンピューターに直接切り替えます (PN=ポート番号)。
[PN][U][Enter]	USB の操作対象を、そのポート ID に対応するコンピューターに直接切り替えます (PN=ポート番号)。 注意: このホットキーは、1段目のKVMスイッチでのみ機能します。
[A][Enter]	オートスキャンを実行します。KVMの選択対象は、デフォルトの5秒間隔でポート間を巡回します。
[A][n][Enter]	n 秒間隔 (n = 1~255秒) でオートスキャンを実行します。
[H]	HSM起動キーを、デフォルト ([Num Lock][-]) と代替 ([Ctrl][F12]) の間で切り替えます。
[T]	OSDホットキーを、デフォルト ([Scroll Lock][Scroll Lock]) と代替 ([Ctrl][Ctrl]) の間で切り替えます。
[F1]	ポートOSをWindowsに設定します。
[F2]	ポートOSをMacに設定します。
[F3]	ポートOSをSunに設定します。
[F5]	対象となるコンピューターでキーボード／マウスのリセットを実行します。
[B]	ビーブ音を有効／無効にします。
[R][Enter]	ホットキーの設定をリセットして、デフォルトの状態に戻します。 p.76「工場出荷時のホットキーと設定のデフォルト値」を参照してください。

キー	機能
[D]	ビデオダイナシクを起動します。この機能は、起動時の表示トラブルを回避し、ポート切替時の解像度を最適化する ATEN 独自の技術です。
[M]	マウスエミュレーションを有効／無効にします。
[←]	スキップモードで、リスト内の前のアクセス可能なポートにスキップします。
[→]	スキップモードで、リスト内の次のアクセス可能なポートにスキップします。
[↑]	スキップモードで、前のアクセス可能なポートにスキップします。前のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチにある場合、そのスイッチの最後のアクセス可能なポートにスキップします。
[↓]	スキップモードで、次のアクセス可能なポートにスキップします。次のアクセス可能なポートがカスケード接続された KVM スイッチにある場合、そのスイッチの最初のアクセス可能なポートにスキップします。
[ESC]または スペースキー	ホットキー設定モードを終了します。

注意:

ポートの個別切替を行ったり、オートスキャンモードまたはスキップモードを使用したりする場合は、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.41参照)。

第6章 キーボードエミュレーション

Macキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、Macキーボードの機能をエミュレートできます。
エミュレーションマッピングは下表のとおりです。

PCキーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl][1]	
[Ctrl][2]	
[Ctrl][3]	
[Ctrl][4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意:

キーのエミュレーションを行う場合は、最初のキー (Ctrl) を押して離し、続いて目的のキーを押して離してください。Windows の [Ctrl] + [C] のような同時押しではなく、順番に操作します。

Sunキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、[Ctrl]キーを他のキーと組み合わせて使用すると、Sunキーボードの機能をエミュレートできます。対応する機能は下表のとおりです。

PCキーボード	Sunキーボード
[Ctrl][T]	Stop
[Ctrl][F2]	Again
[Ctrl][F3]	Props
[Ctrl][F4]	Undo
[Ctrl][F5]	Front
[Ctrl][F6]	Copy
[Ctrl][F7]	Open
[Ctrl][F8]	Paste
[Ctrl][F9]	Find
[Ctrl][F10]	Cut
[Ctrl][1]	
[Ctrl][2]	
[Ctrl][3]	
[Ctrl][4]	
[Ctrl][H]	Help
	Compose
	

注意:

キーのエミュレーションを行う場合は、最初のキー(Ctrl)を押して離し、続いて目的のキーを押して離してください。Windows の [Ctrl] + [C] のような同時押しではなく、順番に操作します。

第7章

ファームウェア管理ユーティリティ

はじめに

Windows 用のファームウェア管理ユーティリティは、お使いの環境に設置された CS1798A をアップグレードするためのツールです。このユーティリティは、各機器専用のファームウェアアップグレードパッケージに含まれています。

新しいファームウェアが公開されると、そのアップグレードパッケージが弊社ウェブサイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>) に掲載されます。最新のファームウェアおよび関連情報については、このサイトを定期的にご確認ください。

ファームウェアアップグレードパッケージのダウンロード

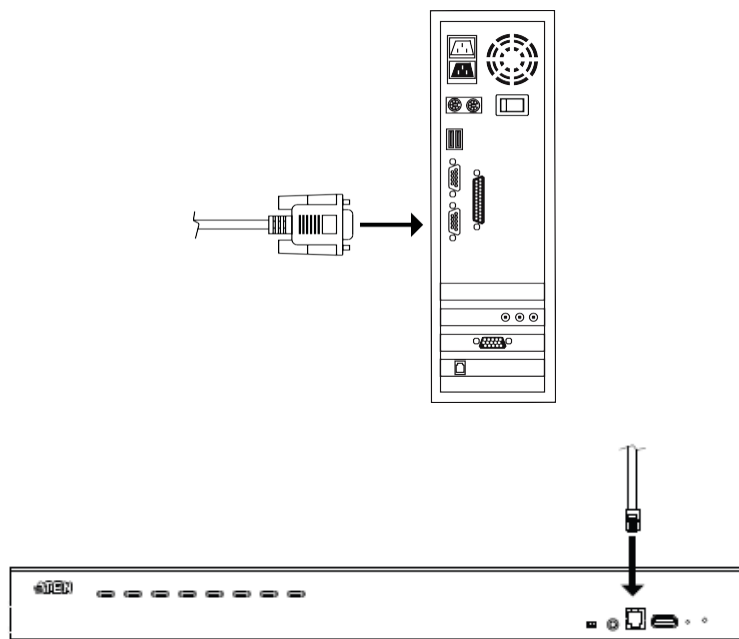
ファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードするには、次の手順で操作します。

1. KVMスイッチが組み込まれたシステムに属していないコンピューターから、弊社のウェブサイトに進み、デバイスに関連するモデル名を選択すると、使用可能なファームウェアアップグレードパッケージのリストが表示されます。
2. インストールするファームウェアアップグレードパッケージ(通常は最新)を選択し、コンピューターにダウンロードします。

準備

ファームウェアのアップグレードを実行する前に、次の手順で準備を行います。

1. 製品に付属のファームウェアアップグレードケーブルを使用し、コンピューターのCOMポートと製品本体のファームウェアアップグレードポートを接続します。



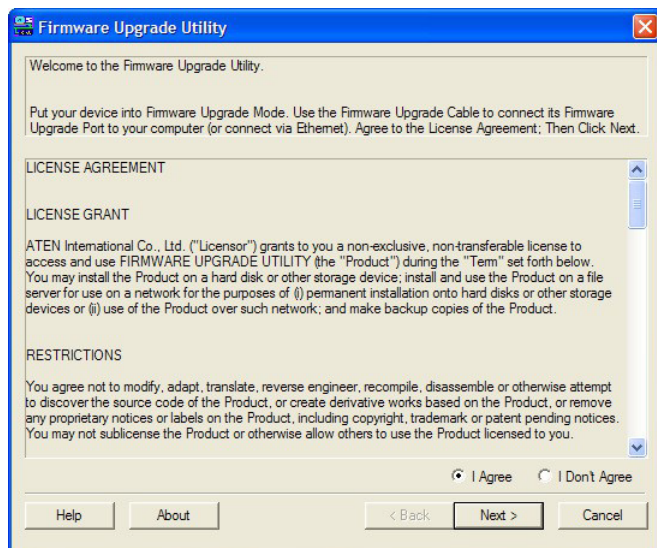
2. KVMスイッチのシステムに組み込まれているコンピューターをすべてシャットダウンします。
3. KVMスイッチのコンソールから、アドミニストレーターとしてOSDにログインし(p.30 参照)、「F4:ADM」機能を選択します。
4. 「FIRMWARE UPGRADE」までスクロールします。[Enter]を押してから[Y]を押すと、ファームウェアアップグレードモードが起動します (p.40参照)。

アップグレードの開始

ファームウェアをアップグレードするには、次の手順で操作します。

1. ダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージファイルを実行します。ファイルアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインを開いてフルパスを入力してください。

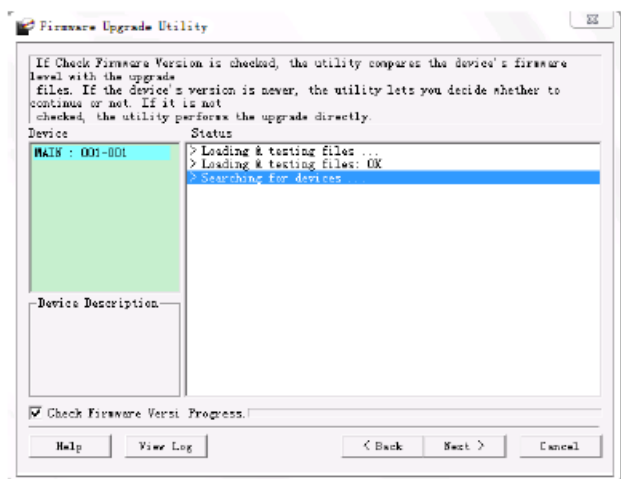
ファームウェア管理ユーティリティの初期画面が表示されます。



注意:

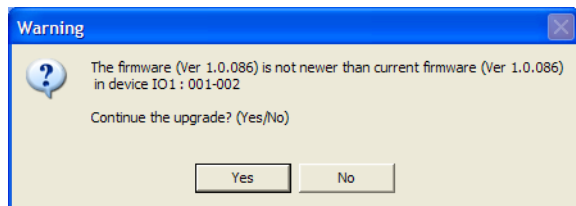
このセクションに表示される画面は参考用です。ファームウェア管理ユーティリティによって表示される実際の画面の表現とレイアウトは、これらの例と若干異なる場合があります。

2. ライセンス契約を読んだら、「同意する」ラジオボタンを有効にします。
3. 「次へ」をクリックすると、ファームウェア管理ユーティリティのメイン画面が表示されます。このとき、アップグレード可能なデバイスが「デバイスリスト」パネルに表示されます。



4. 「次へ」をクリックしてアップグレードを実行します。

「ファームウェアバージョンを確認する」の項目を有効にした場合、ユーティリティはデバイスのバージョンとアップグレードファイルのバージョンを比較します。デバイスのバージョンがアップグレードバージョンよりも新しい場合、状況を確認するダイアログボックスが表示され、続行またはキャンセルのオプションが表示されます。

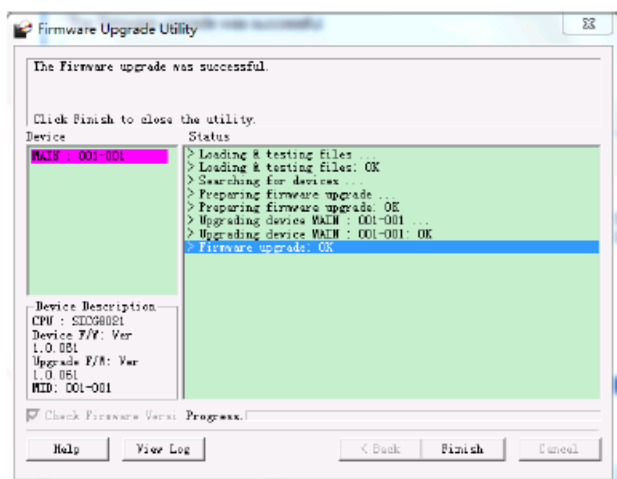


「ファームウェアバージョンを確認する」を有効にしなかった場合は、アップグレードファイルのバージョンにかかわらず、アップグレードファイルがインストールされます。

アップグレードが進むと、ステータスメッセージパネルにステータスメッセージが、プログレスバーにアップグレードの進捗状況が表示されます。

アップグレードの成功

アップグレードが完了すると、処理が成功したことを通知する画面が表示されます。



「完了」をクリックすると、ファームウェア管理ユーティリティを終了します。

アップグレードに失敗した場合

「アップグレードの成功」画面が表示されなかった場合、ファームウェアのアップグレードに失敗しています。続行する方法については、次のセクション「ファームウェアアップグレードの復旧」を参照してください。

ファームウェアアップグレードの復旧

次の条件下では、ファームウェアアップグレードの復旧が必要です。

- ◆ ファームウェアのアップグレードを手動で中止した場合
- ◆ メインボードのファームウェアアップグレードに失敗した場合
- ◆ I/Oファームウェアのアップグレードに失敗した場合

ファームウェアアップグレードを復旧するには、次の手順で操作します。

1. 製品本体の電源をオフにします。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを、本体のファームウェアアップグレードポートに接続します。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**RECOVER**」の位置にスライドさせます。
4. 製品本体の電源を入れ直し、アップグレード手順をやり直します。
5. アップグレードが正常に終了したら、製品本体の電源をオフにし、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「**NORMAL**」の位置に戻します。
6. 製品本体をカスケード接続して使用している場合は、システムに戻します。
7. 製品本体の電源をオンにします。

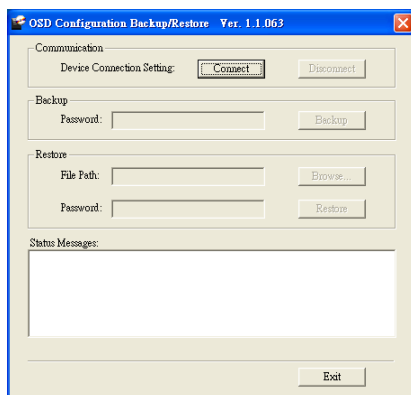
OSD設定のバックアップ／復元

ファームウェア管理ユーティリティでは、CS1798Aの現在のOSD設定をバックアップまたは、復元できます。同じ設定を複数のシステムに適用する場合は、OSD設定を保存すると便利です。

バックアップ

バックアップファイルをローカルコンピュータに保存するには、次の手順で操作します。

1. コンピューターがCS1798Aに接続されていることを確認します。p.61「準備」を参照し、手順1～3に従って作業します。
2. 「F4:ADM」機能を選択し、「OSD CONFIG BACKUP / RESTORE」までスクロールします。次に、[Enter] を押してから [Y] を押して、OSD設定のバックアップ／復元モードを起動します。
3. ファームウェア管理ユーティリティを実行します。ダイアログボックスで、「OSD設定のバックアップ/復元」を選択し、「次へ」をクリックします。
4. 表示されるウィンドウで、「デバイスに接続」をクリックします。



5. 「パスワード」の項目に、ファイルの復元に必要となるパスワードを入力します。

注意:

パスワードの設定はオプションです。パスワードを設定していない場合、ファイルはパスワードなしで復元されます。

6. 「**バックアップ**」ボタンをクリックします。
7. ブラウザーからファイルの操作を求められたら、「ディスクに保存」を選択し、任意の場所に保存します。

復元

ローカルコンピューターからバックアップファイルを復元するには、次の手順で操作します。

1. 前のセクションの手順1～3を実行します。詳細は、p.66「バックアップ」を参照してください。
2. 「**復元**」をクリックして、ローカルコンピューターに保存されているデータをインポートして復元します。この機能のパスワードを設定している場合は、「**復元**」をクリックする前に、表示された項目欄にパスワードを入力します。確認ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックして続行します。
3. 使用するバックアップファイルを参照し、「**復元**」をクリックします。バックアップファイルがアプリを実行しているコンピューターにあることを確認してください。
4. 復元処理が完了し、成功すると、確認ウィンドウが表示されます。「OK」をクリックして終了します。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品パッケージに同梱のすべてのドキュメントに目を通してください。また、ドキュメント類は、後で見返せるようにすべて保存してください。
- ◆ 製品本体に記載されている警告や指示に従ってください。
- ◆ 製品本体を不安定な面（カート、簡易スタンド、テーブルなど）に置かないでください。落下すると製品が破損するおそれがあります。
- ◆ 製品を水の近くで使用しないでください。
- ◆ 製品は、冷却装置や加熱機器の近く、またはその上に置かないでください。
- ◆ 排熱機構のないデバイスを、組み込みエンクロージャーに置かないでください。
- ◆ 本体のお手入れの際には、あらかじめプラグを壁のコンセントから抜いてください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ システムへの損傷を避けるために、すべてのデバイスを適切に接地することが重要です。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。電源コードやケーブルを踏んだり、これらにつまずいたりしないよう、配線してください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火や感電のおそれがありますので、キャビネットの空きスロットなどにケーブルの余剰部分を押し込まないようにしてください。
- ◆ 本製品の修理はご自身で行わず、保守契約をされている業者または購入元を通じて弊社の修理サービスをご依頼ください。

- ◆ 下記の現象が発生した場合、製品本体をコンセントから外して技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損したり、擦り切れたりしている。
 - 本体の上に液体がこぼれた。
 - 本体が雨や水に濡れた。
 - 本体が落下した、またはキャビネットが破損している。
 - 本体の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。記載外の調整を行うと製品が損傷し、資格を有する技術者による大がかりな修理が必要になる場合があります。
- ◆ 「UPGRADE」と印字されたRJ-11コネクタを公衆通信ネットワークに接続しないでください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を行う前に、スタビライザーがラックと床に固定されていることと、ラックの重心が安定していることを確認してください。
- ◆ ラックへの機器搭載は、必ず下から上に向かって行ってください。また、最も重いアイテムを下から搭載してください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する電源が過負荷にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は最大でも80%を超えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックからの排熱やラックへの通気が十分に行えるようにしてください。
- ◆ 本製品で定められている動作環境温度の範囲内で使用できるように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスにより登ったりしないでください。

技術サポート

インターナショナル

- ◆ トラブルシューティング、マニュアル、およびソフトウェアアップデートを含むオンラインテクニカルサポートの場合 : <http://support.aten.com>
- ◆ 電話によるサポートについては、p.iiを参照してください。

北米

メールによるサポート		support@aten-usa.com
オンライン テクニカルサポート	ドキュメント ソフトウェア更新 トラブルシューティング	http://www.aten-usa.com/support
電話によるサポート		1-888-999-ATEN ext 4988

お問い合わせいただく際には、あらかじめ以下の情報をご用意ください。

- ◆ 製品型番、シリアル番号、購入日
- ◆ コンピューター構成(OS、リビジョンレベル、拡張カード、ソフトウェアを含む)
- ◆ エラー発生時に表示されるエラーメッセージ
- ◆ エラーに至るまでの操作の順序
- ◆ 他にも役立つと思われる情報

CS1798A の台数と制御可能台数の対応表

次の表は、CS1798A の台数と制御可能なコンピューター台数の対応を示しています。

CS1798A

台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター	台数	コンピューター
1	1 - 8	20	134 - 141	39	267 - 274	58	400 - 407
2	8 - 15	21	141 - 148	40	274 - 281	59	407 - 414
3	15 - 22	22	148 - 155	41	281 - 288	60	414 - 421
4	22 - 29	23	155 - 162	42	288 - 295	61	421 - 428
5	29 - 36	24	162 - 169	43	295 - 302	62	428 - 435
6	36 - 43	25	169 - 176	44	302 - 309	63	435 - 442
7	43 - 50	26	176 - 183	45	309 - 316	64	442 - 449
8	50 - 57	27	183 - 190	46	316 - 323	65	449 - 456
9	57 - 64	28	190 - 197	47	323 - 330	66	456 - 463
10	64 - 71	29	197 - 204	48	330 - 337	67	463 - 470
11	71 - 78	30	204 - 211	49	337 - 344	68	470 - 477
12	78 - 85	31	211 - 218	50	344 - 351	69	477 - 484
13	85 - 92	32	218 - 225	51	351 - 358	70	484 - 491
14	92 - 99	33	225 - 232	52	358 - 365	71	491 - 498
15	99 - 106	34	232 - 239	53	365 - 372	72	498 - 505
16	106 - 113	35	239 - 246	54	372 - 379	73	505 - 512
17	113 - 120	36	246 - 253	55	379 - 386		
18	120 - 127	37	253 - 260	56	386 - 393		
19	127 - 134	38	260 - 267	57	393 - 400		

仕様

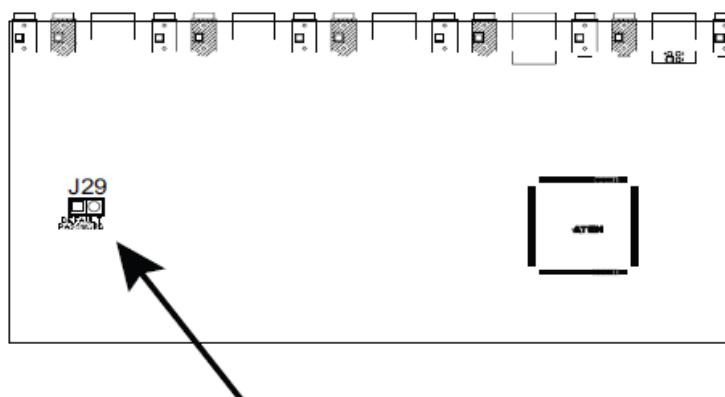
機能			CS1798A
コンピューター 接続数	ダイレクト		8
	最大		512(カスケード接続)
ポート選択			OSD、ホットキー、プッシュボタン
コネクタ	コンソール ポート	キーボード	USB Type-A メス×1(White)
		ビデオ	HDMI メス×1(Black)
		マウス	USB Type-A メス×1(White)
		スピーカー	3.5mmオーディオジャック メス×2 (Green、フロント×1、リア×1)
	KVM ポート	キーボード/ マウス	USB Type-B メス×8(White)
		ビデオ	HDMI メス×8(Black)
		スピーカー	3.5mmオーディオジャック メス×8(Green)
	F/Wアップグレード		RJ-11 メス×1(Black、フロント×1)
	電源		DC電源ジャック×1
	USB 2.0ハブ		USB Type-A メス×2 (White、フロント×1、リア×1)
スイッチ	ポート選択		プッシュボタン×8
	リセット		ピンホール型スイッチ×1
	F/Wアップグレード		スライドスイッチ×1
LED	USBリンク		8(Green)
	オンライン/選択		8(Orange)
	電源		1(Dark Green)
エミュレーション	キーボード/マウス		USB
ビデオ			4096×2160 @ 60 Hz
スキャンインターバル			1～255秒(デフォルト:5秒)

機能		CS1798A
消費電力		DC5V:6.43W:56BTU/h
		注意: ♦ ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合におけるデバイスの標準的な消費電力を示します。 ♦ BTU/h単位の測定値は、フル負荷時におけるデバイスの電力消費量を示します。
動作環境	動作温度	0～50℃
	保存温度	-20～60℃
	湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース	ケース材料	メタル
	重量	3.50 kg (7.72 lb)
	サイズ(W×D×H)	43.24 × 25.72 × 4.40 cm (17.02 × 10.13 × 1.73インチ)

アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザーネームやパスワードを忘れたなどの理由で、アドミニストレーターとしてログインできない場合、次の手順でログイン情報を消去できます。

1. CS1798Aの電源を切り、ケースを取り外します。
2. 「J29」ジャンパーを短絡させます。



3. 製品本体の電源を入れます。
4. 本体フロントパネルのLEDが点滅したら、製品本体の電源を切ります。
5. 「J29」からジャンパーキャップを外します。
6. ケースを元どおりに取りつけ、CS1798Aを起動します。

起動後は、デフォルトのログイン手順 (p.30「OSDへのログイン」参照) を使用してログインできます。

工場出荷時のホットキーと設定のデフォルト値

設定	ホットキー	デフォルト
OSDホットキー(デフォルト／代替)	[T]	[Scroll Lock][Scroll Lock]
HSMの起動	[H]	[Num Lock][-]
オートスキャン スキャンインターバル	[A][Enter]	5秒
マウスエミュレーション	[M]	有効
ポート切替キー(オン／オフ)	[X][Enter]	有効
ビーブ音	[B]	有効
ビデオダイナシンク	[D]	有効

ATEN保証ポリシー

製品の保証内容は、製品カテゴリー・購入国・地域・販売店によって異なります。そのため、保証条件やサポート範囲を確認する際は、次の順序でご確認ください。

1. まずは、購入元（販売店または代理店）へ、購入時点の契約条件や保証期間、購入元が提供する付帯サービスなどをご確認ください。
2. ATEN の公式ウェブサイトで、購入した国／地域を選択し、該当するサポートセンターの情報と製品保証規定ページをご確認ください。購入国ごとに保証ポリシーや対応窓口が異なりますので、購入元のサービス内容と保証規定を確認してください。

さらに技術的な支援や手続きが必要な場合は、最寄りの ATEN 営業担当者またはサポート窓口へお問い合わせください。

© Copyright 2026 ATEN ®International Co., Ltd.
リリース:2026-02-10

ATENおよびATENロゴは、ATEN International Co., Ltd.の登録商標です。無断転載を禁じます。その他すべてのブランド名および商標は、それぞれの所有者の登録商標です。